

**平成 26 年度やんばる観光連携推進事業
実施報告書
（概要版）**

**平成 27 年 3 月
北部広域市町村圏事務組合**

目 次

序章 事業の概要.....	1
第1章 連携の仕組みづくり.....	4
1-1. やんばる観光連携推進研究会の設置.....	4
(1) 目的	4
(2) 実施概要	4
(3) 成果と課題	7
1-2. 連携プロジェクト実証.....	8
(1) 目的	8
(2) 実施概要	8
(3) 成果と課題	13
第2章 情報集約・発信	14
2-1. 情報サイトの充実強化.....	15
(1) 目的	15
(2) 実施概要	15
(3) 成果と課題	19
2-2. 情報拠点の充実強化.....	20
(1) 目的	20
(2) 実施概要	20
(3) 成果と課題	25
第3章 観光プロモーション.....	26
(1) 目的	26
(2) 実施方法	26
(3) 成果と課題	32
第4章 ニーズ把握調査.....	33
4-1 観光動態調査	33
(1) 調査の目的	33
(2) 調査概要	33
(3) 成果と課題	36
4-2. インバウンド観光の現状	37
(1) 目的	37
(2) 実施概要	37
第5章 とりまとめ.....	40
5-1 今年度の成果と課題	40
(1) 各事業の成果と課題とりまとめ	40
(2) 事業の進捗評価	41
5-2 平成27年度業務の内容	42
(1) 平成 27 年度業務の内容（全体像）	42
平成 26 年度 委員名簿	43

序章 事業の概要

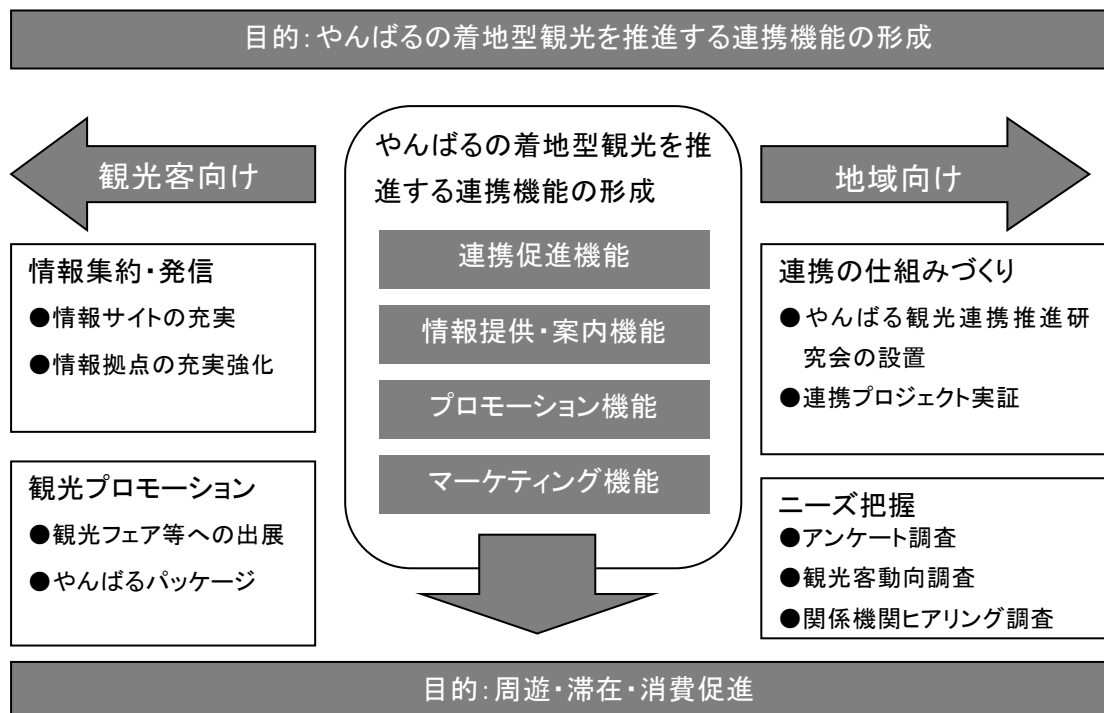
1. 事業の目的

やんばる地域には、美ら海水族館や西海岸リゾート施設など集客力のある観光施設等がある一方で、周辺地域には誘導できていない現状がある。やんばる地域の多様で魅力ある潜在的な観光資源は、観光客への認知度は低く、観光客の動向が偏っている状況にある。

本事業では、観光連携体制を構築することにより、観光客の「周遊・滞在・消費」の促進を目標として進めてきた。

目標に向けては、地域の資源を活かした受地主導の着地型観光商品をつくり、観光客向けの情報集約発信、観光プロモーション、連携の仕組みづくり、ニーズ把握調査の4つを柱に広域的に取り組む、それを推進する連携機能の形成を目的とする。

図 本事業「やんばる観光連携推進事業」における目標



周遊促進効果の目標 ⇒ やんばる地域に訪れる観光客が増加

滞在促進効果の目標 ⇒ 北部での滞在時間が延長

消費促進効果の目標 ⇒ 北部での消費促進

2. 業務の全体像

本事業は、やんばる観光の連携体制の創出を目的として平成 24 年度よりスタートした。

平成 24 年度は、連携のあり方についての議論を中心として課題と目標、将来像を示してきた。

平成 25 年度は引き続き検討を続けながら、連携の仕組みづくり、情報集約・発信、観光プロモーションについては仕組みづくりの実証を一部進めながら、ニーズに関する調査も行ってきた。

平成 26 年は、やんばる観光連携推進研究会を設けるとともに東海岸をモデルとした連携プロジェクトや情報集約発信、観光プロモーションについてそれぞれプロジェクトチームを作って実践・運用に移してきた。ニーズ調査については観光動態調査、インバウンド調査などを行った。

平成 27 年度は、エリア別の連携を進めるべく各エリアの連携プロジェクトを行うとともに、情報集約・発信、観光プロモーションについては、仕組みの確立を図りながらニーズ調査を参考に戦略的な運用を図っていく。また、これらの仕組みを継続するための連携体制についての方針を具体化する。

平成 28 年度は、連携体制、情報集約発信、観光プロモーション、ニーズ調査の仕組みを確立するとともに、目標である周遊・滞在・消費促進について検証する。

図 事業の全体像

平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27～28 年
WG、懇談会、協議	WG、懇談会、協議会、連絡会、ワークショップ	協議会（副長会）	協議会
○課題の抽出 ・連携の場 ・情報共有 ・情報発信 ・ニーズ把握 ○目標 連携により・・・ ・滞在促進 ・消費拡大 ○将来像 やんばるの観光の多様性と個性がもつ奥深い魅力がつながり広がる観光地へ	1 連携の仕組みづくり ・コーディネーター配置 ・ワークショップの開催 ・連携プロジェクトの検討	1 連携の仕組みづくり ●（仮称）やんばる観光連携推進研究会の設置 ・実行体制づくりの実践研修 ●連携プロジェクト実証 ・（仮称）東海岸連携プロジェクト実施（モニターツアー）	1 連携体制検討 （案）研究会継続 （案）事務局機能の検討 （案）連携継続 （案）商品化検討
	2 情報集約・発信 ・情報サイト制作 ・情報拠点の設置	2 情報集約・発信 ●情報サイトの充実強化 ・推奨ルートと飲食店・観光スポットの掲載 ●情報拠点の充実強化 ・観光案内コーナーの充実・整備 ・ガイドブック、マップ制作（多言語追記）	2 情報発信 （案）情報充実 （案）情報拠点の継続・充実
	3 観光プロモーション ・観光フェア出展 「やんばる」全体の売込	3 観光プロモーション ●観光フェア等への出展 ・発地側での観光フェア出展 ・着地側での観光フェア出展 ●やんばるパッケージ制作 ・観光フェアにおける配布用の袋等の試作 ●プロモーション用やんばる観光イメージ映像制作	3 観光プロモーション （案）広域連携によるPR （案）観光土産品販売
	4 ニーズ把握 ・「やんばる」のイメージやニーズ把握	4 ニーズ把握 ●観光客動態調査 ・観光客の行動パターンに関する調査 ●関係機関ヒアリング調査 ・クルーズ船、インバウンド等に関するニーズ調査	4 ニーズ把握 （案）アンケート調査継続

3. 業務の実施体制

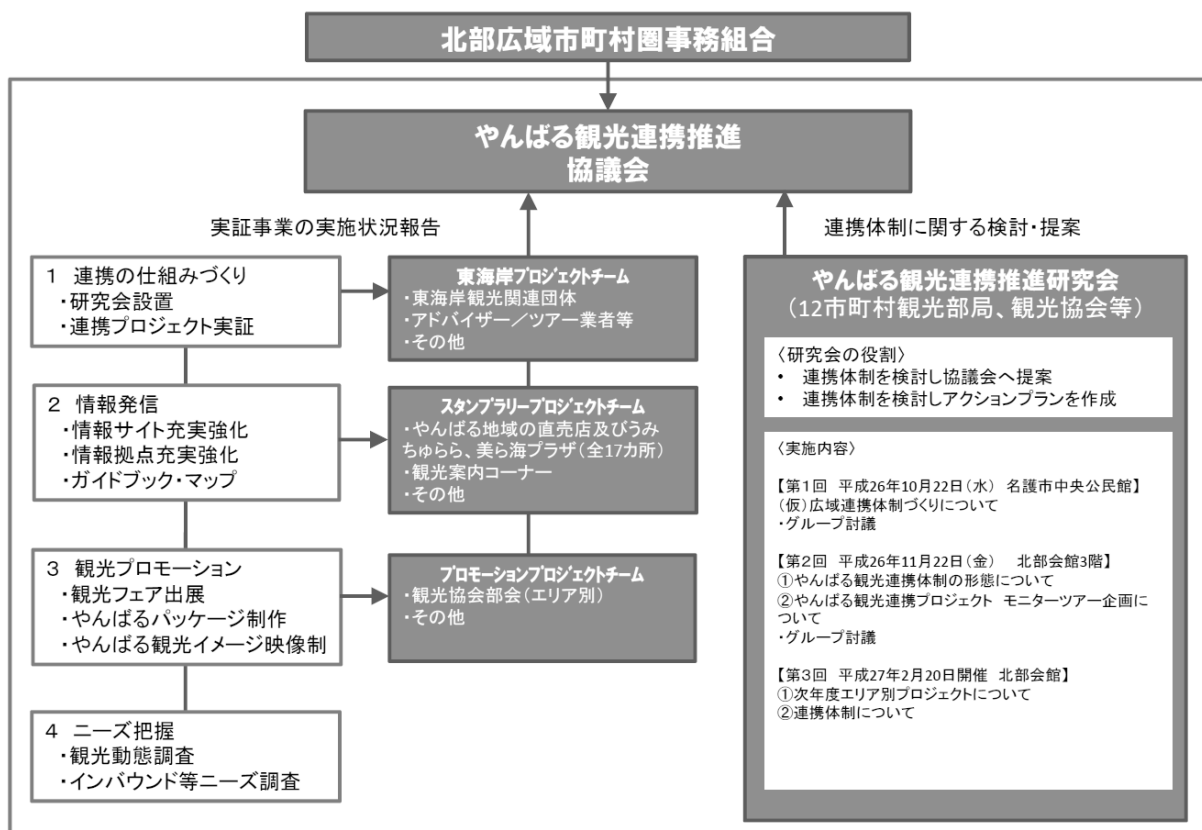
本事業の実施体制は、まず北部広域市町村圏事務組合を事業主体とする。

また、事業内容に関する意思決定は「協議会」で行う。

平成 24～25 年度は「協議会」、「懇談会」、5 つの「ワーキンググループ会議」、「ワークショップ」などを設けて連携に関する検討を進めてきた。

平成 26 年度からは「協議会」を意思決定機関としつつ、各市町村の観光担当課、観光団体等で構成する「研究会」を設けて連携に関する検討を続けるとともに、各実証事業では関係する観光団体等によるプロジェクトチームを設け、実践してきた。（下図参照）

図 平成 26 年度実施体制



※それぞれの会議の名称を以下のように言う。

- ・ やんばる観光連携推進事業協議会（12市町村副長で構成） 以下「協議会」という。
- ・ やんばる観光連携推進事業懇談会（有識者、関係団体の長で構成） 以下「懇談会」という。
- ・ やんばる観光連携推進ワーキング・グループ（各テーマ（①交通サイン②イベント・観光 PR ③花と緑④スポーツコンベンション⑤観光人材育成）に応じた知識経験者等で構成） 以下「WG」という。
- ・ やんばる観光連携推進研究会（市町村観光担当課及び観光関連団体で構成）以下「研究会」という。

第1章 連携の仕組みづくり

1-1. やんばる観光連携推進研究会の設置

(1)目的

本事業では、北部広域全体の広域的な連携体制を構築することを目的としている。

平成 24 年度はWG、懇談会、協議会を設置し、平成 25 年度からは市町村観光担当者の連絡会を設けるとともに、特定メンバーのみならず多くの観光関係者の意見を聴取できるよう、ワークショップを開催してきた。これまで各会議において、連携に関するアイデアや施策が出されており、WG、懇談会は当初の目的を果たしたものとして平成 25 年度で終了した。

平成 26 年度からは、これまで検討されたことを実行に移すための連携体制の検討を目的に、新たに「やんばる観光連携推進研究会」(以下、「研究会」という)を設置した。

(2)実施概要

表 研究会に関する開催経緯

開催経緯	開催概要
【事業内容説明会】 平成 26 年 8 月 26 日(火) 13:30～15:00	開催場所: 北部会館 参加対象: 市町村観光担当課 内 容: ①事業内容に関する意見交換 ②広域連携体制の役割や形態について 開催方法: 事務局説明及び意見交換
【市町村・関連団体ヒアリング】 平成 26 年 9 月 12 日～10 月 17 日 (各1時間程度)	実施場所: 各市町村役場、各団体事務所に訪問 実施対象: 研究会メンバー(各市町村役場、各団体) 内 容: 事前アンケートを配布・回収した内容をヒアリングで共有 ①研究会の進め方について ②北部 12 市町村(やんばる広域圏)の連携で取り組むべきこと ③やんばる広域観光連携体制の組織形態(選択問題) ④事務局の運営に係る財源について 実施方法: 事務局説明およびヒアリング、意見交換
【第1回研究会】 平成 26 年 10 月 22 日(水) 14:00～15:30	実施場所: 名護市中央公民館 実施対象: 研究会メンバー、オブザーバー(沖縄県、OCVB) 議 題: 広域連携体制づくりについて グループ討議 開催方法: エリア別グループ討議
【第2回研究会】 平成 26 年 11 月 21 日(金) 13:30～16:30	実施場所: 北部会館 3 階 実施対象: 研究会メンバー、オブザーバー(観光庁、沖縄総合事務局、OCVB) 議 題: ①やんばる観光連携体制の形態について ②やんばる観光連携プロジェクト モニターツアー企画について 開催方法: エリア別グループ討議
【第3回研究会】 平成 27 年 2 月 20 日(金) 13:30～16:00	実施場所: 北部会館 3 階 実施対象: 研究会メンバー、オブザーバー(沖縄総合事務局) 内 容: ①次年度エリア別プロジェクトについて ②やんばる観光連携推進事業連携体制について 開催方法: エリア別グループ討議

①次年度エリア別プロジェクトについて

- ・ エリア別連携プロジェクト企画の発表

エリア区分	企画概要
本部半島・伊江島エリア (名護市・本部町・今帰仁村・伊江村)	連携プロジェクト名称:(仮称)本部半島・伊江島アウトドアスポーツ推進プロジェクト ・地域の海、山、川など、本部半島・伊江島エリアの各地に点在する自然環境を活かしたアウトドアスポーツのフィールドをつなぐことにより、エリア内での周遊、滞在を促進したい。また、これにより新たな観光商品開発で産業を創出したい。
南エリア (恩納村、宜野座村、金武町)	連携プロジェクト名称:(仮称)女子スポーツ誘致プロジェクト ・3町村連携で、女子スポーツのキャンプや大会誘致を図る。 ・大会やキャンプ開催と交流会等を開催することにより地元との接点をつくる。 ・女子スポーツ地としてのイメージづけ、ブランド化を図る。
いいなエリア (伊是名村、伊平屋村、今帰仁村)	連携プロジェクト名称:(仮称)いいな歴史探訪ツアー推進プロジェクト ・3村は共に歴史的に琉球王朝の始まりに起因する地域であり、歴史的、芸能においても、各地域の地域興しの一翼を担っている。歴史を紡ぐ三村の周遊ツアーを造成し、地域資源の掘り起こしと、持続可能な商品開発を提案する。
東海岸エリア (国頭村、東村、名護市、宜野座村、金武町)	連携プロジェクト名:(仮称)やんばる東海岸大人の民泊推進プロジェクト ・東海岸に観光客の流れを作りたい。 ・沖縄特有の自然環境、生活文化が残る場所でありこれらを活かした観光を推進したい。 ・各地域とも民泊を推進している。教育旅行だけでなく大人を対象とした民泊を進めたい。 ・平成26年度にモニターツアーを実施。実践的な連携体制と、商品化に向けた取り組みが必要である。

※ 企画内容は、各エリアで企画会議を経て検討されたものである。内容の詳細は、後述の次年度企画のページにて掲載する。



研究会 グループ討議

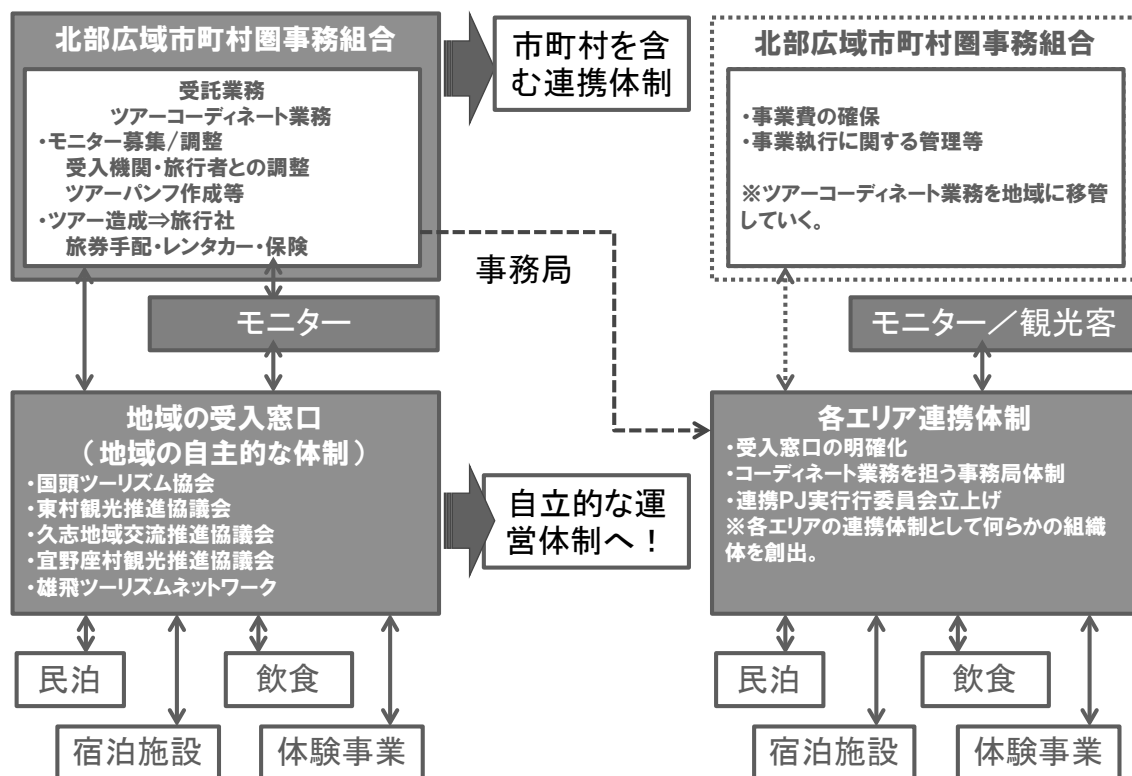


研究会 グループ討議内容の発表

■エリア別連携プロジェクトの実施体制及び目標

H26東海岸連携PJの実施体制を例として

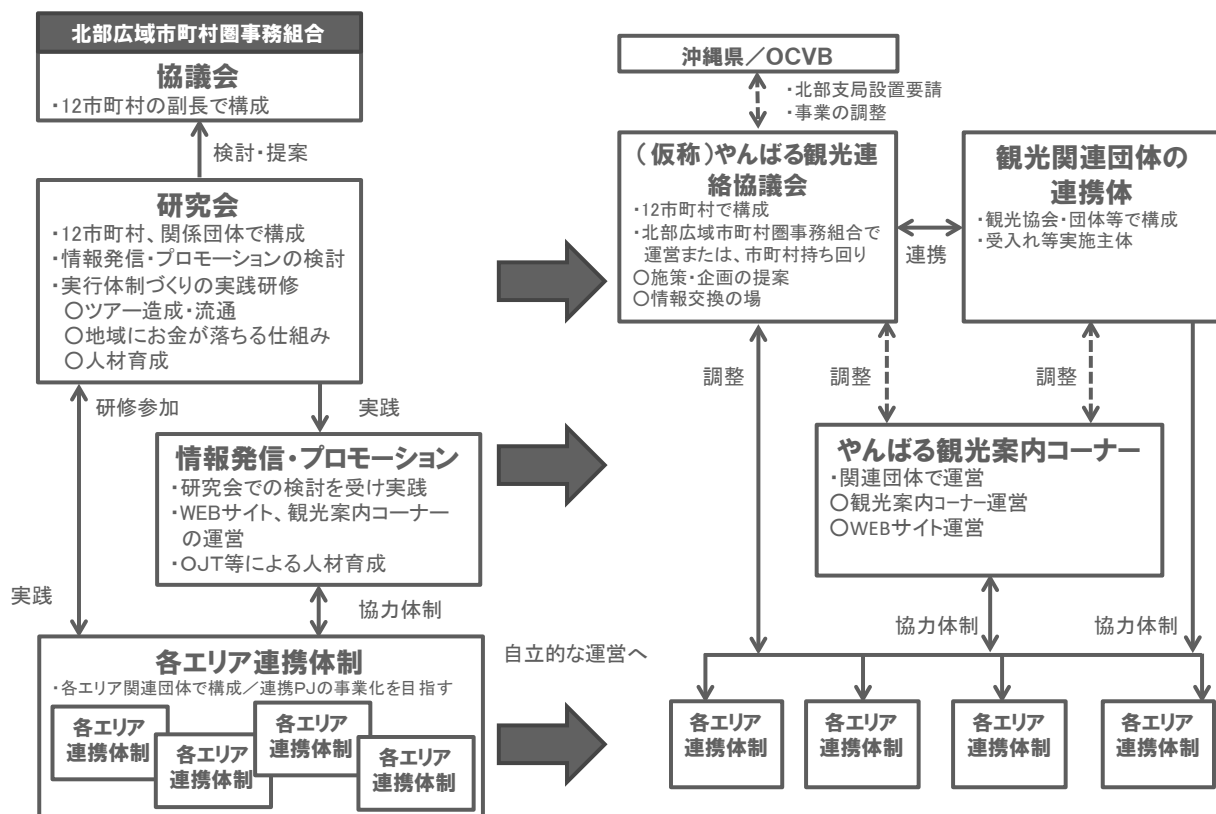
実施体制の目標



■事業の実施体制及び連携体制の目標

平成 27・28 年度の実施体制イメージ

平成 29 年度の以降の体制イメージ



(3)成果と課題

①事業の成果

- 「やんばる観光連携推進研究会」の設置により 12 市町村の観光行政、観光団体が一同に集まり、やんばるの観光について協議する場が創られた。
- 広域連携体制については、まず近隣エリアでの連携を創出及び強化することとなった。このため、平成 26 年度に実施した東海岸エリア連携プロジェクトのように、エリア別の連携プロジェクトを立ち上げ、実践をととして連携体制を創ることとなり、各エリアから自主的に連携プロジェクトの企画提案があがった。
- 従来のエリア区分は地理的な近接性や航路のつながり等による区分であったが、連携プロジェクトとしての要望はテーマやツアー内容で区分されており、従来のエリア区分と必ずしも一致しない結果となった。
- 今後も 12 市町村の連携については必要とする意向が強く、研究会を継続しながら、「(仮称)やんばる観光連絡協議会」の設立を検討することとなった。

②今後の課題

- 広域連携はエリア別の連携体制から進めることとなった。
- 各エリアで実証事業として行うプロジェクトは、今後継続して行くためには商品化して収益事業としての成立を目指す必要がある。
- 各エリアの実行体制で目標を定めるとともに、連携組織として関連する市町村、団体の合意形成を図り、実体のある体制としていく必要がある。
- 連携プロジェクトの実行体制は、地域の自主的な取り組みとして事務局の自立化を目指す必要がある。
- 研究会の継続により 12 市町村の連携を検討するにあたっては、財政負担の無い自立した組織を目指すことが必要とされた。このため、「(仮称)やんばる観光連絡協議会」の設立については、意義、役割を具体化するとともに、自走できる体制を検討していく必要がある。

1-2. 連携プロジェクト実証

(1) 目的

本事業は「やんばるでの周遊・滞在・消費の促進」を課題としてきた。平成 24・25 年度の各会議をとおして、周遊・滞在・消費の促進を考えた場合、東海岸や離島に比較的観光客が少ないことが課題とされた。

そのため、平成 26 年度事業は東海岸に人の流れを創るために、まず東海岸で連携プロジェクトを実施することとした。

「東海岸連携プロジェクト」は、各地域の観光素材を活かした着地型の観光形態を目指し、地域の団体共同で企画し受け入れを実践する。モニター募集、販売等については旅行社との協力関係を作って実施する。

※ 他の地域については、東海岸モデルの実施を参考として自主的に連携プロジェクト実行体制をつくり、企画することで平成 27 年度以降の実証事業として取りこんでいくことを予定する。

(2) 実施概要

① 連携プロジェクトチームの組成

- ・ 平成 25 年度事業のワーキングやワークショップをとおして、比較的観光客の少ない東海岸にどのように流れを創っていくかが課題として挙げられた。
- ・ 平成 25 年度のワークショップの成果の一つとして、「エコ&スポーツプロジェクト」とのテーマがあげられ、モデルとなるエリアが東海岸とされた。このテーマをベースとして、プロジェクトの具体化を図るため関連団体で企画会議を持った。
- ・ 国頭村から金武町に至るやんばるの東海岸で観光を進める 5 つの団体が集まり、まずは連携の意義について議論を深めながら、自主的な取り組みとしてプロジェクトチームを立ち上げることとした。

表 東海岸連携プロジェクトチーム

関係団体	・NPO法人国頭ツーリズム協会(国頭村) ・NPO法人東村観光推進協議会(東村) ・久志地域交流推進協議会、名護市地域おこし支援員、地域づくりコーディネーター(名護市) ・宜野座村観光推進協議会(宜野座村) ・雄飛ツーリズムネットワーク(金武町)
実施形態	・モニターツアーの実施
実施の目的	・やんばる東海岸をめぐるツアーのモデル(試作品)を作る ・修学旅行以外の新たなターゲットを開拓する
実施目標	・東海岸の観光地の認知度向上 ・東海岸コースの観光モデルが出来上がる ・キャパ拡大のための相互紹介や受け入れの連携体制ができる

②連携プロジェクトの企画経緯

- ・ 連携プロジェクトの企画にあたり、東海岸連携プロジェクトチームにて企画会議を開催した。
- ・ 企画会議にあたっては、要所でアドバイザーの玉沖仁美氏を交え、地域資源を旅行商品としていくまでのプロセスや事務局体制などについてアドバイスをもらいながら進めた。

【相互視察】

第1回目:9月17日 名護市～宜野座村～金武町

第2回目:10月1日 名護市～東村～国頭村(やんばる学びの森泊)

【企画会議】

第1回 東海岸プロジェクト会議

日時:10月9日 10:00～12:00 /場所:北部会館

第2回東海岸プロジェクト会議

日時:10月20日 14:00～17:00 /場所:北部会館

第3回東海岸プロジェクト会議

日時:11月13日 16:00～19:00 /場所:北部会館

第4回東海岸プロジェクト会議

日時:12月16日 15:00～19:00 /場所:北部会館

第5回東海岸プロジェクト会議

日時:1月21日 15:00～17:00 /場所:北部会館

(開催状況)



相互視察



企画会議

③モニター募集について

- ・ 今回の東海岸プロジェクトは、大人の民泊をテーマとしたものであり、今後商品化に向けて検討がなされるものである。このため、今回のモニター対象者は、ツアー内容の感想・評価だけでなく、改善点やブラッシュアップすべき点などを適切にアドバイスいただける方を対象に選考した。
- ・ 選考にあたっては、受託者及び連携プロジェクトチームのネットワークを活かして、関係機関より募集した。

(モニターの種類)

- A: 観光のプロ(旅行商品造成者)
- B: マーケティング、プロデュース、企画のプロ(商品開発の視点でのアドバイスを求める)
- C: 編集者・コピーライター(全国を観光に限らず取材しているので、可能なら担当メディアにて記事にして頂く)
- D: 地域振興コンサルティング(コンサルのプロの視点でアドバイスを求める)
- E: サービス業(接客対応)のプロ(応対についてのアドバイスを求める)
- F: 女性マーケットのプロ(女性ターゲットの商品としてアドバイスを求める)
- G: その他(ごく少数、一般の方も含める)

④モニターツアー内容の作成

- ・ ツアー内容は、企画会議で作成した行程表の基本パターンを基に事務局から各モニターへ連絡を取り、個々のスケジュールに合わせたツアー内容を作成した。
- ・ 道の駅許田にある観光案内コーナーへの訪問、民泊1泊、一般宿泊施設1泊、体験プログラム2つをツアーの基本形とした。
- ・ 民泊、宿泊施設は事務局側で決定し、モニターには宿泊地近隣で行える体験プログラムを選んで頂き、往復の飛行機の時間についてはモニターの都合を踏まえ、スケジュールに合わせたツアー内容とした。

【モニターツアーの内容】

テーマ	大人の民泊
受け入れ時期	平成27年1月23日～3月1日(金・土・日を基本)
モニター対象	観光関連業者、メディア関連業者等(羽田発)
モニター人数	13組(31人 2名×10組、3名×1組、4名×2組)
行程	2泊3日、レンタカー利用
プログラム	東海岸地域で民泊1泊、宿泊施設1泊 東海岸の体験プログラム(必須2回)

打合せ議事内容

1日目	2日目	3日目
13:00 特快 15:00 検入 16:30 検入	9:00 農家体験 12:00 民泊 検入 14:00 検入 16:00 検入 17:00 検入 18:00 検入	7:00 体験 10時 AM 検入 15:00 検入 17:00 検入

⑤モニターアンケート概要

(調査目的)

モニターツアー調査は、造成したツアー商品について、実際の催行により評価を行うため、モニターツアー参加者に対しアンケート調査を実施したものである。モニターツアーは、那覇空港からレンタカー移動を設定し、予め評価の対象として設定した宿泊施設や各種施設、その行程の各訪問施設の評価を実施したものである。

(調査の方法)

◇調査方法 : ツアー参加者に直接調査票配布、回収

◇調査対象 : モニターツアー参加者

◇サンプル数 : 30 名

◇調査期間 : 1月 23 日(金)～3月3日(火)

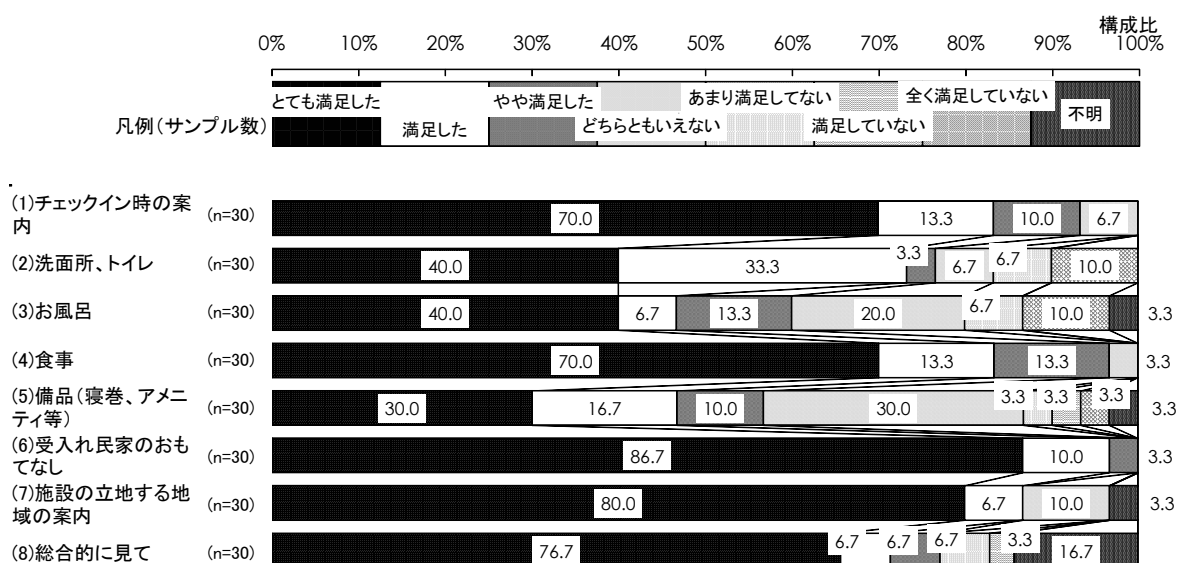
(調査結果)

Q 施設の満足度(民泊)(単一回答)

◇民泊の満足度は概ね高い

民泊の評価は、全体的に満足度が高い結果であった。「(1)チェックイン時の案内」「(4)食事」「(6)受け入れ民家のおもてなし」「(7)施設の立地する地域の案内」などは、良い評価を得られた。しかし、「(2)洗面所、トイレ」「(3)お風呂」「(5)備品」については、比較的低い評価であった。

■ 施設の満足度



(記述回答の傾向)

評価ポイント

- ・ 受け入れ民家のホスピタリティに関して、好印象を受けたとの声が多数あり。特に、距離感のとり方や気遣いさせない雰囲気作りなどについて心地よさを感じたなどの評価が多かった。
- ・ 地元の人の考え方など直接聞けることが、民泊ならではのよさとの評価があった。

改善ポイント

- ・アメニティなどの細部に関する配慮に関しての改善点が挙げられている。
- ・民泊に関する不安を取り除くためにも事前情報の充実を求める声があった。
- ・食事の量や、後片付けなどに関して、修学旅行とは区別すべきとの声があった。

Q 民泊再訪意向(単一回答)

◇民泊の再訪意向者は多い

民泊の再訪意向を示す方は、76.7%と高い割合であった。

■ 民泊への再訪意向

項目	件数 (人)	構成比 (%)	構成比(%)
1 ある	23	76.7	
2 ない	7	23.3	
0 不明	0	0.0	
サンプル数	30	100.0	

⑥調査結果の分析

◆モニターツアー全体としての評価は高い。

- ・アンケート結果を踏まえると、やんばる地域としてのコンテンツのもつポテンシャルとしては、良い評価であると思われる。

◆目的型ツアー造成の検討が必要である。

- ・参加者の移動をみると、宿泊地を基点とした周遊が多くみられた。時間的な制約や必須事項が多いこともあっての結果であると思われるが、実際の観光客も2泊3日という短い時間での旅行が多いと思われる。誘客を促進する地区を目的地(宿泊地)とした商品造成を検討する必要がある。

◆ツアーの造成の際は、その行程に配慮する必要がある。

- ・参加前の期待度と参加後の満足度の比較において、満足度が期待度よりも向上している中で、「ツアー行程」に対する評価が非常に低下している。モニターツアーとしての前提であるが、これまで実施してきたツアーの考え方をベースに検討したものであることを踏まえると、行程への配慮は十分検討が必要である。

◆資源についてのPRの必要がある。

- ・やんばる地域の資源について、全体的に認知度は非常に低い結果であるが、興味があるという資源も多くみられる。これら興味を示す資源についてのPRや活用を積極的に進めていく必要がある。

◆宿泊施設についてターゲットに合わせた改善が必要である。

- ・民泊においては、お風呂や備品への評価が低い。ハードの改善は、難しい面もみられるため、誰をターゲットにしているかなど宿の志向に応じた、可能な範囲での対応を進めることがポイントである。
- ・ホテルは、最低ラインの設備は必要と思われるため、ターゲットによらず、改善すべき点は進めていく必要がある。

◆情報提供の充実を図る必要がある。

- ・情報提供について、結果的に参加者が一般の旅行雑誌を活用しているようでは、やんばる地域の良さを伝えることに限界があると思われる。地域を伝えることを再度考慮し、観光客への提案を含めた情報提供の充実を図る必要がある。

(3)成果と課題

①事業の成果

- ・ 今回の東海岸プロジェクトにより、東海岸の 5 団体がそれぞれの地域で取り組んできた背景をふまえて、共同で取り組む連携体制のモデルが創られた。
- ・ 今回東海岸が取り組んだことで、他の地域も連携で取り組むモチベーションがあがるなど自発的な連携の企画を促した。
- ・ 関係する 5 団体の取り組みにおいて共通する「民泊」をとりあげ、「大人の民泊」という新しい市場の開拓への取り組みのスタートとなった。民泊は東海岸のみならず、北部全体に拡大を見せており、このツアーをモデルとして取り組みが拡大する可能性がある。
- ・ モニターアンケート調査からは、概ね満足との評価となっており、商品化への可能性が期待される。また、アンケートでは多くの指摘、改善点も挙がっており、これも大きな成果ととらえ、ブラッシュアップのための課題としていく。
- ・ 受け入れ側も満足度は高く、積極的に取り組んでいく姿勢が見られる。

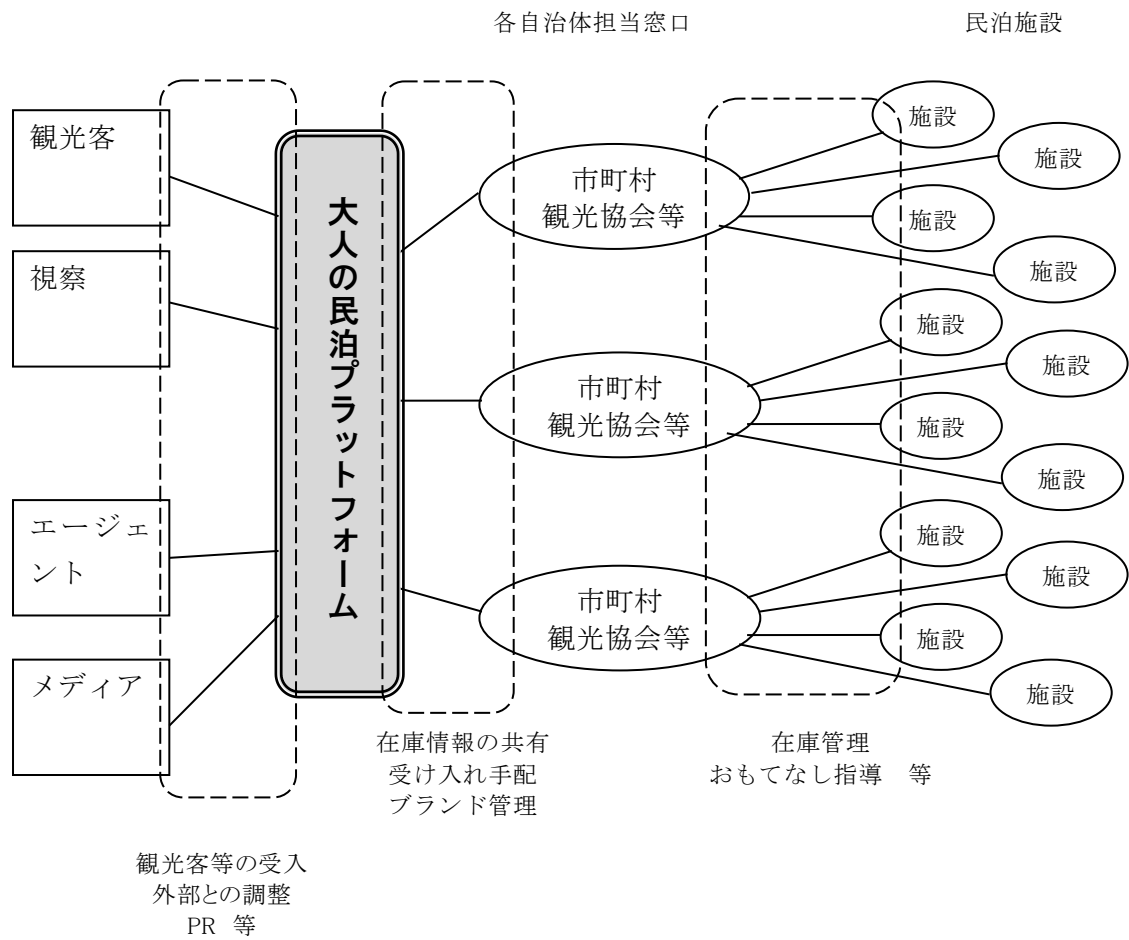
②今後に向けて

- ・ モニターアンケートの分析と改善点の対策を含め、ツアー内容のブラッシュアップが必要である。
- ・ ターゲット設定、価格設定など商品化に向けて検証すべき点を整理して取り組んでいく必要がある。
- ・ 今回は、モニターツアーの企画から受け入れ実施まで、プロジェクトチームを中心に行ったが、モニターの募集や手配、連絡調整など受託スタッフによる支援もあった。今後はツアーの商品化も見据えながら、プロジェクトチームの自立化についても検証していく必要がある。
- ・ ツアー商品化にあたっては、市場とのネットワーク形成も必要であり、研究会等で情報交換を進めながら進める必要がある。

③大人の民泊への提言（大人の民泊の具体化に向けて）

- ・ 関係する5団体において、大人の民泊ブランドの確立と周知のための効果的な PR 活動を実施するため、ワンストップの窓口となるプラットフォームを構築する。
- ・ 大人の民泊のブランドを構築する。
- ・ 大人の民泊周知のための地域一帯となった PR 活動を実施する。
- ・ 大人の民泊を受け入れる施設を精査し、在庫管理を徹底する。
- ・ 大人の民泊の商品を磨き上げ、販売価格を上げる。
- ・ 自社の商品として取り扱う、パートナーとしてのエージェントを発掘する。

■ 大人の民泊プラットフォームについて



第2章 情報集約・発信

2-1. 情報サイトの充実強化

(1)目的

平成 24 年度事業において、情報の集約・発信の必要性があげられ、平成 25 年度にはやんばるの観光情報を発信する WEB サイトを制作し、情報収集・発信の仕組みを作ってきた。

平成25年度制作した WEB サイト(沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト)では、「情報の更新」に重点を置き、最新情報、現地情報の投稿の仕組みを作ってきた。

今後はこの仕組みを活用して、観光客の周遊・滞在・消費を促進していくことが求められている。

平成 25 年度の各会議では、観光ルートの紹介とともに飲食や土産品の情報と組み合わせ、経済効果につなげる必要があり、また効果的な情報配信のためにはターゲット設定や情報管理の必要性があげられている。

これらの結果を受け、平成 26 年度は情報サイトの充実・強化を図っていく。

(2)実施概要

平成 25 年度に開設した本事業の専用 WEB サイト「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」の充実を図るため、下記の取り組みを実施した。

①WEBサイト強化のための取り組み

- a. Facebook ページ設置 9 月 17 日
- b. 「やんばるレポート」としてホームページ上に Facebook ページ欄を追加
- c. 「やんばるイベント」イベントアプリダウンロード開始
- d. 「やんばるの観光」リーフレット日本語版ダウンロード開始
- e. 「やんばるの観光」リーフレット多言語版ダウンロード開始
- f. 「やんばる Drive SHOPPING & GOURMET」 ページ開設
- g. トップページレイアウト変更とイベント告知等

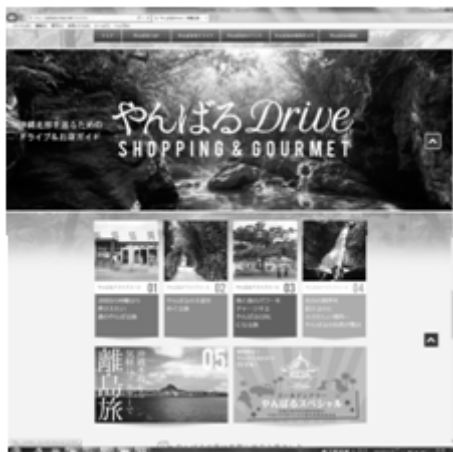


図 トップページのレイアウト変更

「やんばる Drive」としてページをリニューアル。

やんばるの最新イベントを写真で表示。今回のリニューアルやイベント情報を掲載した。

既存のイベントデータベース「ぴらつか暦」よりやんばる地域の最新イベント情報を日替わりで紹介

「やんばるイベント」アプリや多言語マップのデータのダウンロードページ紹介

「やんばるレポート」として、FACEBOOK ページの掲載コーナーを追加した。観光協会等各団体の投稿も集約する仕組みを構築。

「やんばるファンひろば」として、既存のサイトのやんばる情報がアップされる。

②利用実績

a. WEB サイトアクセス状況

(訪問数)

- WEB サイト「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」への訪問数について、平成 26 年 9 月からの訪問数を項目別にみると、最も多いのは検索エンジンからの訪問で 68%となっている。
- WEB サイトでの情報取得については、ページビュー（ページ閲覧数以下、「PV」という）数が多いほど、ページにとどまって多くの情報を取得しているものと推測できる。観光情報であるゆえに季節変動の影響もあるが、PVは9月の8,631から減少も見られたが、1月には1万を超えている。また、一人当たりページビュー数をみると、12月から1月にかけて飛躍的に伸びている。この時期にやんばる Drive のページ追加やスタンプラリーの告知などが始まっており、その効果と考えられる。

表 沖縄観光情報コミュニケーションサイトへの項目別アクセス数

月別	アクセス数					PV(閲覧ページ数)		直帰率	新規率	1件当たり滞在時間
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦			
	検索エンジン	SNS	外部リンク	直接入力	合計(件)	月間PV数	PV数/件(⑥/⑤)			
9月	3,738	22	363	471	4,594	8,631	1.9	73.8%	82.4%	1:09
10月	2,679	32	457	375	3,543	7,756	2.2	70.7%	79.4%	1:34
11月	1,995	143	632	309	3,079	6,794	2.2	67.9%	75.8%	1:47
12月	1,685	401	206	317	2,609	6,374	2.4	65.3%	74.2%	2:04
1月	2,113	662	532	386	3,693	10,668	2.9	61.6%	73.1%	2:39
2月	2,329	39	294	406	3,068	8,445	2.8	66.4%	77.8%	2:15
3月	1,613	26	301	277	2,217	7,257	3.3	59.5%	74.5%	2:42
	16,152	1,325	2,785	2,541	22,803					

項目別カウント ※2015年3月20日までの集計

- ①検索エンジンから訪問した数
- ②ソーシャルメディアから訪問した数
- ③他のサイトリンクから訪問した数
- ④ブラウザのブックマーク、URL直接入力、メールにあるURLをクリックした数
- ⑤月間アクセス数の合計
- ⑥月間PV(ページビュー)閲覧ページ数
- ⑦PV数/件 アクセス1件あたりのPV(ページビュー)数

図 項目別アクセス数

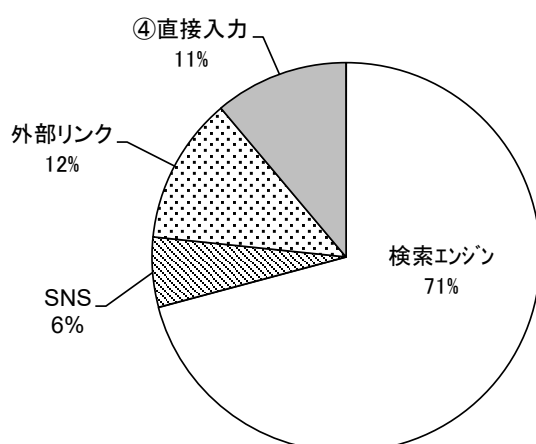
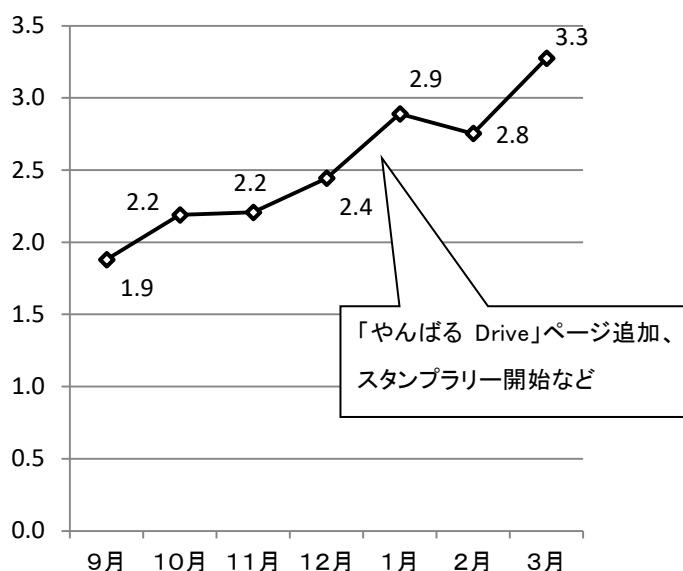


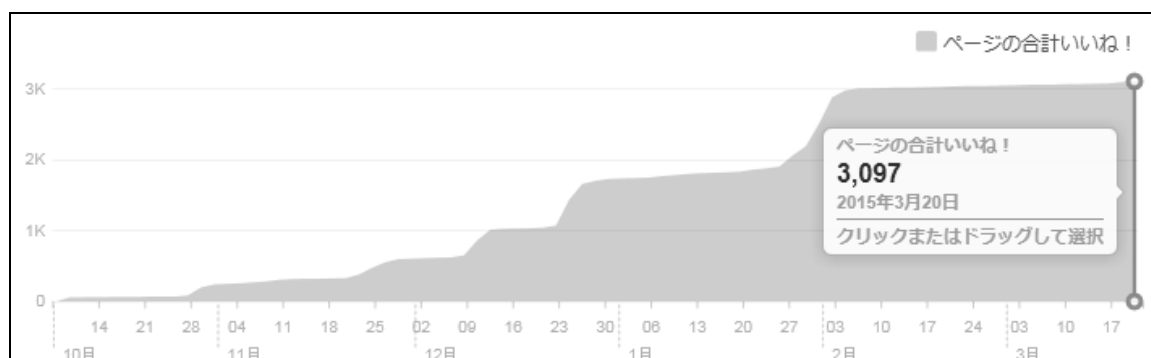
図 PV数/件(1件当たりPV数)の推移



b. Facebook 「いいね」 件数

- Facebook ページは、開設した 9 月より「いいね！」の数は増加し続け、3 月 20 日現在で 3,097 件となっている。
- Facebook はほぼ毎日投稿記事を出しており、記事内容に応じて要所で広告を出し、増加を促した。閲覧者は国内外に拡大しており、外国語での投稿なども織り交ぜながら発信している。
- Facebook の利用者(閲覧数)の男女別、年齢別内訳で見ると 35 歳-44 歳男性が 25%と最も多くなっている。

図 Facebook ページへの「いいね！」の数



Facebook 3/20 現在 「いいね」 3,097 件)

集計期間 (2014 年 9 月 17 日 ～2015 年 3 月 20 日)

表 投稿記事数、リーチ数、いいね！数の分析

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
① 投稿記事数	7	16	67	38	37	32	25
② リーチ数合計/月	113	2,777	21,028	117,935	69,094	73,553	53,243
③ いいね！合計/月	4	273	1,757	1,757	6,450	7,886	5,820
④ リーチ数/投稿	16	174	314	3,104	1,867	2,299	2,130
⑤ いいね！/投稿	1	17	26	46	174	246	233

* 9月は17日～30日まで。3月は1日～20日までの数値。

①投稿記事数 Facebookへの投稿数。

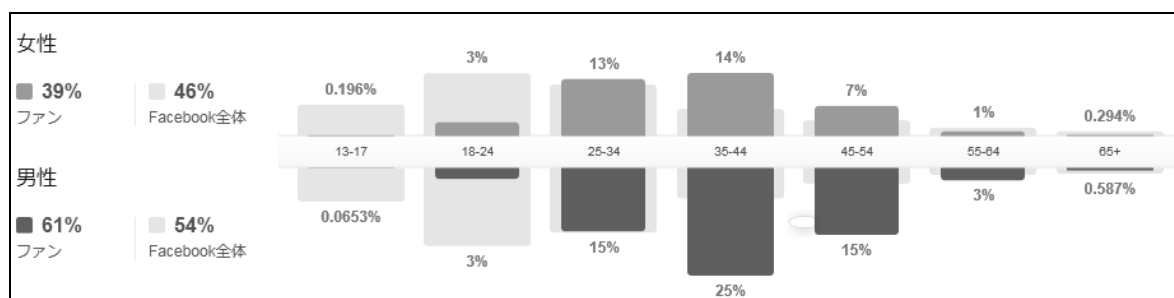
②リーチ数合計/月 投稿記事を閲覧した人数/月

③いいね！合計/月 投稿記事の内容に「いいね！」(支持する)とした人数/月

④リーチ数/投稿 = ②リーチ数合計/月 ÷ ①投稿数

⑤いいね！/投稿 = ③いいね！合計/月 ÷ ①投稿数

図 Facebook の利用者(男女別、年齢層別)



資料: FaceBook ページ インサイトより

(3)成果と課題

①事業の成果

- 「沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト」は、Facebook を設置することにより最新情報の集約・発信が可能となった。桜の開花状況やプロ野球キャンプ情報など、道の駅許田に設けているやんばる観光案内コーナーとも連携し、観光客のニーズに応じ、臨機応変に発信している。
- Facebook の利用者は国内外に拡大しており、沖縄の情報が海外に拡散出来るようになった。
- ドライブと飲食情報の組み合わせやイベントアプリ、マップのダウンロードなどコンテンツの充実が図られた。
- 地域の団体が発信する SNS などの情報を集約するシステムにより、各地の最新情報がアップされる仕組みが創られた。また、投稿記事をカテゴリー区分することで、利用者のニーズに応じた情報の提供が可能となった。
- HP のアクセス数は観光客の季節変動(夏場がピークとなるなど)の影響もあるが、一人当たりページビュー数をみると、コンテンツの充実で着実に増加している。

②今後の課題

- 今後も情報の集約、フェイスブック等を活用した最新情報の提供、国内外の観光客への PR とコミュニケーションをさらに充実する必要がある。
- 関係団体との相互リンクなどを今後も拡大しアクセス数を拡大していく必要がある。
- 投稿記事の内容や「いいね！」コメントなどの反応、閲覧者の属性などを参考にやんばるに来たい！と思わせるような記事、またコメントなどにより地元と観光客、また観光客どうしのコミュニケーションが図られるような投稿内容に努める。
- Facebook の投稿については、今後も最新情報の発信を継続することが望まれるが、WEB サイト全体の運営を含め、現在受注スタッフで行っている投稿を誰がどのように担っていくか今後の検討課題である。

2-2. 情報拠点の充実強化

(1) 目的

平成 24 年度事業において情報の集約・発信の必要性があげられ、平成 25 年度にはやんばるの観光情報を発信するやんばる観光案内コーナーを設置し、観光客のニーズ把握や観光案内を行ってきた。

やんばる観光案内コーナーでは、「観光客のニーズ把握」に重点を置き、案内ガイドによる報告でその傾向を把握してきた。概ねの傾向は美ら海水族館など主な目的地を訪問する前後の時間で回れる観光地や飲食店の紹介・案内、やんばる各地への距離や時間に関する情報ニーズが高いことが確認された。

また、周遊パターンを作り、ガイドが紹介することで観光客にとっては時間を有効活用でき、地域観光にとっては周遊・滞在・消費の促進につながる可能性が示唆された。

WGや懇談会では、外国人観光客の増加に対してインバウンド対策は今後必須とされ、情報拠点でも外国人観光客の利用が多く、ガイドブック、マップの多言語化の必要性があげられた。

これらの結果を受け、平成 26 年度は情報拠点「やんばる観光案内コーナー」の充実強化を図るとともに、周遊促進のためのツールを制作し、観光客のやんばるでの周遊を促す。

(2) 実施概要

平成 25 年度に道の駅許田道路情報ターミナル内に設置した「やんばる観光案内コーナー」の充実を図るため、下記の取り組みを実施した。

① やんばる観光案内コーナー充実強化の取り組み

- a. 案内ガイドの配置継続
- b. 観光案内コーナーの充実
- c. 「うみちゅらら」のやんばる観光案内コーナーとの連携



入口に立看板・のぼりの設置

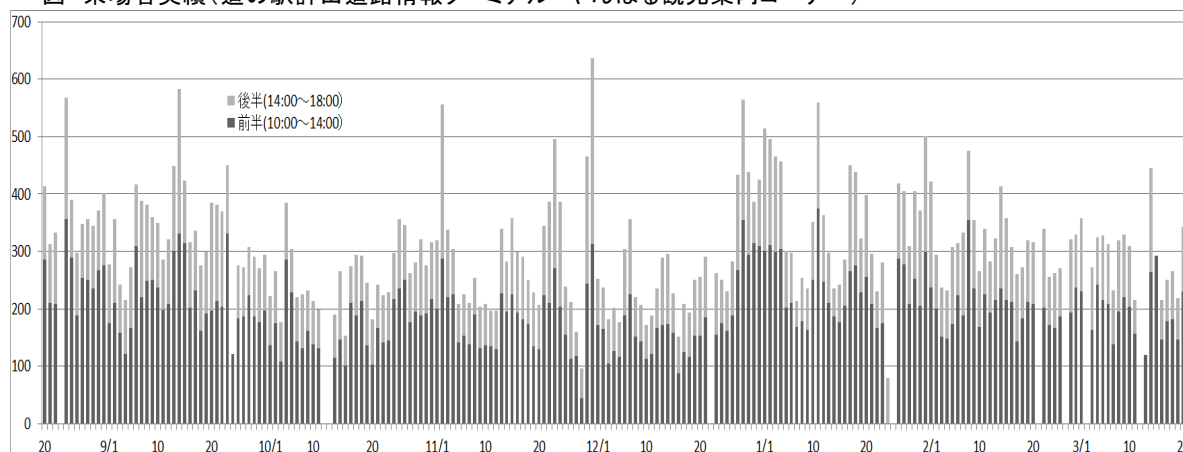


看板の設置

③利用実績

- ・ 道の駅許田道路情報ターミナル「やんばる観光案内コーナー」では、案内ガイドにより毎日の来場者数をカウントしている。
- ・ 来場者は、道路情報ターミナルに入り、観光情報の閲覧、パンフレット取得など何らかの観光情報を得た人数をカウントしている。(道の駅関係者の休憩等は除く)
- ・ 平成 26 年度は、8 月 20 日～平成 27 年 3 月 20 日までの期間で 62,498 人の利用があり、1 日当たりの平均に換算すると、306.4 人／日となる。
- ・ 平成 25 年度との比較のため、調査日の同期間(12 月 3 日～3 月 20 日)で比較すると 1 日あたりの平均来場者数は平成 25 年度の 197.2 人/日に対して、平成 26 年度は 309.0 人/日となっている。
- ・ また、時間帯別でオープンから 14:00 までを前半、14:00 以降を後半として来場者数をみると前半に 65.2%が集中している。

図 来場者実績(道の駅許田道路情報ターミナル やんばる観光案内コーナー)



- ※ 来場者のカウントは、道路情報ターミナルに入った人のうち、観光情報の閲覧、パンフレット取得など何らかの観光情報を得た人数をカウントしている。(道の駅関係者の休憩等は除く)
- ※ オープン時間の変更:2014 年 9 月 30 日まで 10:00～18:00 としていたが、観光客の来場が早い時間に多いことから、2014 年 10 月 1 日より 9:30～17:30 に変更した。

図 来場者時間帯比率

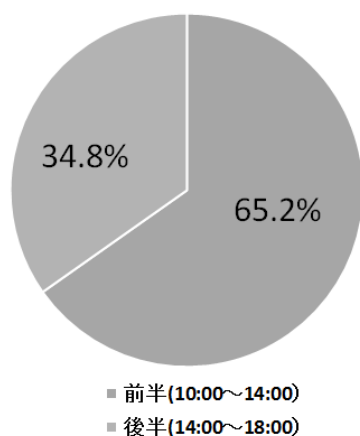


図 月別来場者数実績

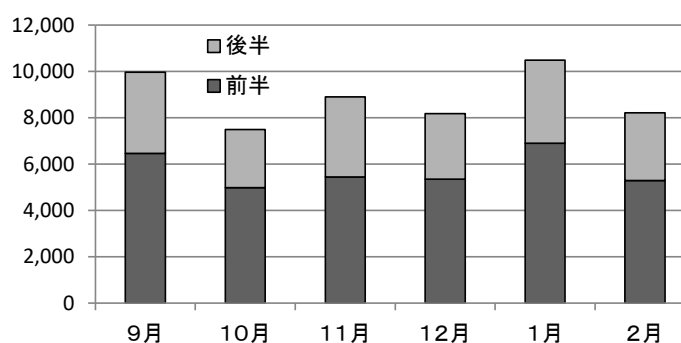


表 平成 25 年度との比較

	平成 25 年度	平成 26 年度	備考
12 月 3 日～3 月 20 日来場者数(人)	19,323 人	31,518 人	比較のため各年同期間とした
1 日平均来場者数(人／日)	197.2 人／日	309.0 人／日	調査日平均
最大日来場者数(人)	405 人	636 人	

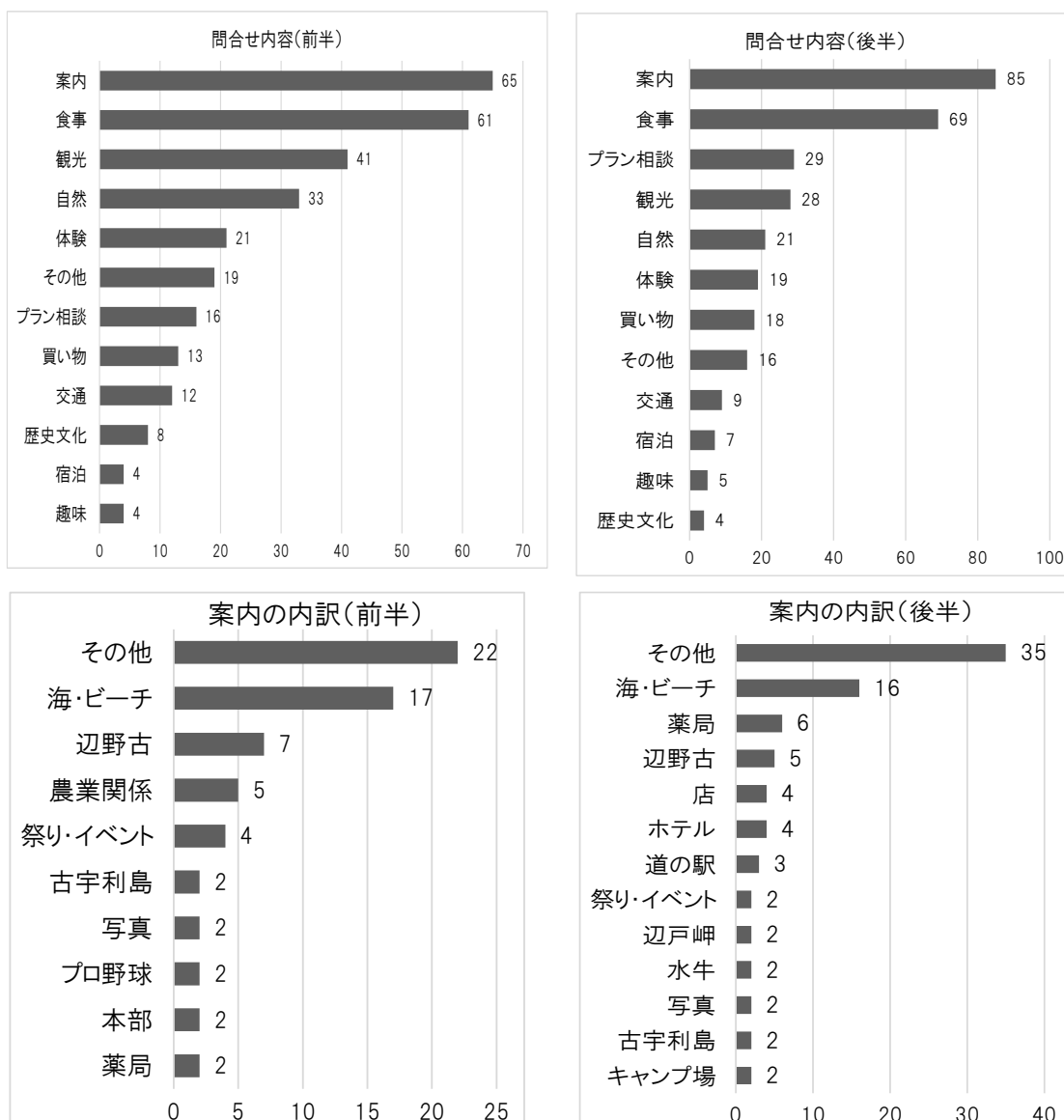
④観光客の問い合わせ内容

- ・ やんばる観光案内コーナーでは、ガイドにより観光客からの問い合わせを日報に記録している。その内容を分類した。
- ・ 最も多いのは「案内」(お勧め案内)と「食事」に関する問合わせである。前半と後半でみると、後半は「食事」に関する問合わせが若干減り、「プラン相談」が多くなっている。
- ・ 「案内」の内訳をみると、海・ビーチが最も多くなっている。
※「案内」とは観光客へオススメスポットなど勧めたこと。

「観光」は目的地がある観光客からの問い合わせを受けルートなどを案内したこと

図 観光客からの問合せ分類

(単位: 件)



⑤周遊促進ツールの制作

- ・ 情報集約・発信の取り組みとして、次のような周遊促進ツールの制作を行った。
- a. 観光案内マップ（やんばるドライブマップ）リニューアル＆多言語制作）
 - ・ 日本語版 10,000 部
 - ・ 多言語版 8,000 部（英語 3,000、中国語繁体字 3,000、中国語簡体字 1,000、韓国語 1,000）
 - ・ 道の駅許田観光案内コーナーで配布
- b. やんばる Drive 本制作
 - ・ 飲食店、観光スポット等の紹介 （30,000 部印刷）
 - ・ 道の駅許田及び各地の直売店で配布
 - ・ レンタカー予約者にダイレクトメールで配布
 - ・ 県内主要ホテルでの配布
- c. ドライブCD 「ゴールデンアワーやんばるスペシャル」
 - ・ 番組タイアップによりリスナー投稿によるやんばるの紹介
 - ・ パーソナリティー:FM 沖縄アナウンサー西向井幸三氏、糸数美樹氏
 - ・ レンタカー各店で12月25日より3月13日まで貸出実施 1,000 部
 - ・ ポッドキャストで配信 2月14日より実施

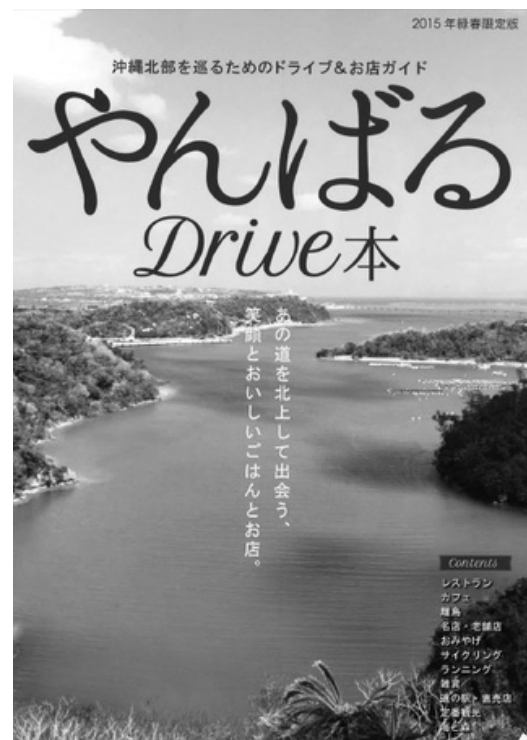


多言語マップの制作



ドライブCD制作 FM 沖縄

「ゴールデンアワーやんばるスペシャル」



やんばる Drive 本の制作・配布

⑥スタンプラリーの実施

- ・ やんばる地域の周遊・消費促進を目的として、道の駅・直売店 17 か所にてスタンプラリーを実施した。

(開催概要)

開催期間:2014 年 12 月 1 日～2015 年 1 月 31 日

応募方法:道の駅・直売店に設置してあるスタンプ(得点)で合計 3 点以上集める。

各道の駅・直売店に設置してある投函箱(1 月 31 日まで設置)に投函。

または、スタンプラリー事務局(2015 年 2 月 10 日消印有効)まで郵送すれば応募が可能。

景品 :特賞(5 点以上) 商品 10 点詰め合わせ(20,000 円相当)5 名分

参加賞(4 点以上)商品詰め合わせ 1 名分

A 賞(4 点以上) 商品 6 点詰め合わせ(10,000 円相当)20 名分

B 賞(3 点以上) 商品 2 点詰め合わせ(2,000 円相当)100 名分

スタンプ用紙:配布数 21,150 枚 (印刷数 30,000 枚)

応募者数:2,340 人

スタンプラリー当選者 (男性 42 名、女性 84 名 計 126 名)

景品発送:2015 年 2 月 10 日の消印郵送分を確認後、2 月 16 日抽選会実施。

2 月 17 日 126 名に発送。(2 月 25 日宅急便到着により完了を確認)

(スタンプラリー応募者分析結果)

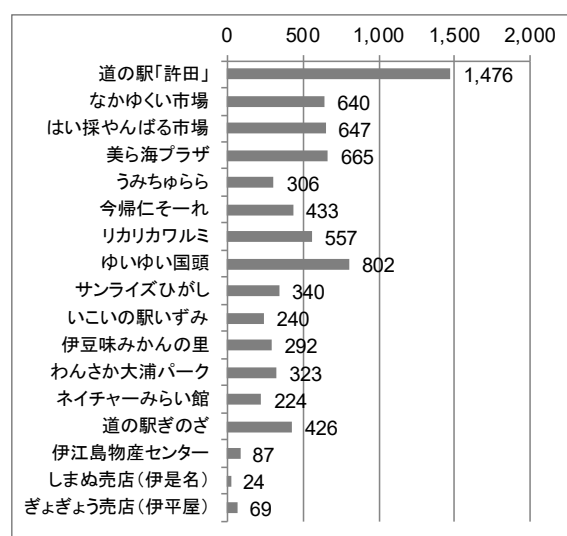
a.概要

- ・ 応募者は合計 2,340 人。参加率(応募者/配布数)は 11.06%となった。
- ・ 一人当たりのスタンプ押印数は平均 3.23(スタンプ数合計 7552÷応募総数 2,340)で、3 か所以上回ったことになる。

図 参加者押印スタンプ数・台紙投かん数

番号	道の駅・直売店	スタンプ数		台紙投函数	
		スタンプ合計	%	台紙合計	%
1	道の駅「許田」	1,476	20%	275	12%
2	なかゆくい市場	640	8%	334	14%
3	はい探やんばる市場	647	9%	172	7%
4	美ら海プラザ	665	9%	93	4%
5	うみちゅらら	306	4%	239	10%
6	今帰仁そーれ	433	6%	73	3%
7	リカリカワルミ	557	7%	94	4%
8	ゆいゆい国頭	802	11%	256	11%
9	サンライズひがし	340	4%	97	4%
10	いこいの駅いずみ	240	3%	40	2%
11	伊豆味みかんの里	292	4%	27	1%
12	わんさか大浦パーク	323	4%	70	3%
13	ネイチャーみらい館	224	3%	52	2%
14	道の駅ぎのざ	426	6%	92	4%
15	伊江島物産センター	87	1%	28	1%
16	しまぬ売店(伊是名)	24	0%	9	0%
17	ぎょぎょう売店(伊平屋)	69	1%	55	2%
	事務局郵送			337	14%
	合計	7,552	100%	2,340	100%

スタンプ数



(3)成果と課題

①事業の成果

- やんばる観光案内コーナーは平成 25 年度から継続しているガイドの配置により観光客から好評を得ている。入口への看板やのぼり、内部の備品の充実などを図るとともに、パンフレットやWEBサイト、Facebook などでも広報を行った。その結果、来場者が増加し、昨年度一日平均 197.2 人／日から、今年度は 309 人／日となっている。
- パンフレット等の配置も充実し、各地域の観光情報発信の場として認知されるようになり、地域からも継続要望が高い。
- パンフレット、ドライブマップ、CDなど、周遊促進ツールの制作により、ドライブルートと飲食情報を組み合わせた案内を行った。
- 多言語(4 言語)マップの制作で、外国人観光客への案内が便利になったほか、「やんばる」を認知させるきっかけともなっている。
- スタンプラリーの開催により、やんばる到着後の情報提供でも目的を創ることで周遊促進を図れることが分かった。また、スタンプの集計結果より、参加者は県民及び北部での宿泊者が多いことや、道の駅や直売店の関係性、つながりが把握できた。

②今後の課題

- 観光案内コーナーでも多言語対応の必要性が高まっている。
- 今後も各地域との連絡体制を強化し、観光客のニーズに応じた的確な案内を行う必要がある。
- 観光案内コーナーの継続要望が高まっており、運営方策や関係機関との位置付けを明確にしていく必要がある。
- スタンプラリーは着地型情報提供による周遊促進と消費拡大を目的として実施した。消費促進のため物産とのつながりという意味では、飲食・物産の紹介も兼ねたグルメ要素を加えたイベントとすることで、消費促進と販促 PR につながると考えられる。。

第3章 観光プロモーション

(1)目的

- ・ 観光プロモーションは、現地での周遊・消費を促すため「やんばる」の知名度向上と 12 市町村が連携した PR を実証することを主な目的として実施した。
- ・ 実施にあたっては来場に対するアンケートを行い、観光地としての「やんばる」の状況・課題を把握する機会としてとらえることにした。

(2)実施方法

- ・ 本土から沖縄観光に来ている旅行者を対象にし、那覇空港ウェルカムホールで「やんばる」での周遊・周遊を目的とした「やんばる観光フェア」を 12 月末に実施した。
- ・ 沖縄県外の観光業界関係者や MICE を予定する企業などを対象とした「沖縄リゾート EXPO in Tokyo」に参加し、やんばる観光を紹介するブースに出展した。

1)「やんばる観光フェア」 那覇空港ウェルカムホール

①開催概要

- ・ 「やんばる観光フェア」は来沖する観光客に 12 市町村の観光パンフレット配布や物販試食により、「やんばる」へ周遊・消費促進を狙った観光案内イベントとして実施した。
- ・ 場所は那覇空港ビルディング2階のウェルカムホール 7m 四方の場所を確保した。
- ・ 試食案内や、ゆるキャラを使用して観光客を引き込み、観光案内を実施するなど、やんばるの紹介により周遊・促進を促した。
- ・ 開催場所のウェルカムホールが出発口にある2階に位置することから、到着口のある1階ロビーにてゆるキャラ等を用いて、「やんばる観光フェア」の告知活動などを行い、到着客を会場に誘導する誘客に努めた。

表 やんばる観光フェアの概要

名称	やんばる観光フェア
主催	北部広域市町村圏事務組合
場所	那覇空港 2 階ウェルカムホール
日時	平成 26 年 12 月 24 日(水) 11:00～16:00 ～ 平成 26 年 12 月 28 日(日) 10:00～16:00 計 5 日間
内容	12 市町村長招待のセレモニー開催 試食・観光案内の実施 映像紹介
対象	那覇空港利用者(到着客、出発客)

②やんばるイメージ PR

- a. ファイルバック
- b. 「やんばる観光フェア」告知フラッグ
- c. やんばる観光案内マップ
- d. 1階到着ロビーでの誘客の様子
- e. 試食品案内
- f. ブルゾンの製作
- g. やんばるイメージ演出
- h. 観光パンフレット配布
- i. アンケート調査



左から「もとぶミスさくら」「がじゅまる王子」「名護さくらの女王」



「もとぶミスさくら」による観光 PR



やんばるファイルバック



動く歩道告知フラッグ



しーちゃん(大宜味村)

ぶともー(本部町)

ぎ〜のくん(宜野座村)

なびーちゃん(恩納村)

2) 沖縄リゾート EXPO in Tokyo 概要

①開催概要

- 「沖縄リゾート EXPO in TOKYO」は、沖縄県及び一般財団法人沖縄コンベンションビューローが主催する沖縄キックオフプロジェクトの一環である。

表 沖縄リゾート EXPO in TOKYO の概要

名称	沖縄リゾート EXPO in TOKYO (沖縄観光&MICE 大博覧会)
主催	沖縄県、一般財団法人沖縄コンベンションビューロー
場所	グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール 3 階
日時	平成 27 年 1 月 28 日 (水) 13:00~18:00
出展事業者	81 事業者
参加者	1,200 人 (外部参加者 842 人+事業者 358 人)
内容	沖縄観光事業者によるブース出展、ミニステージ、セミナールームにおけるプレゼンテーション、映像紹介、抽選会

②PR 内容

a. ブース演出

- やんばるマップの掲載、やんばるの森や山の演出のための緑の演出(模造)などを行った。
- 観光プロモーション用に製作したファイルバックに「やんばる Drive 本」、「やんばるの観光リーフレット」を入れ配布した。
- エリア別代表により、やんばる各地のパンフレット類を配布した。

b. やんばる関連ブースの一体化

- 今回のフェアでは、やんばる地域から多数の出展があり、エリア別にブースが配置されていたことから、結果として名護市観光協会、宜野座村観光推進協議会と隣接して出展することが出来た。やんばる地域関係の出展者が隣り合わせにブースを構えることで、来場者の呼び込みなど相互協力して PR することが出来た。

c アンケート調査

- 来訪者に対し、やんばるの認知度、PR、すべき魅力などに関するアンケート調査を実施した。



出展状況 ブース演出



出展状況 アンケート、商談状況

3)観光プロモーション映像制作

①制作概要

- ・ 観光協会の団体によるプロモーションプロジェクトチームにより、映像制作について話し合いを持ち、エリア別で制作することとなった。
- ・ 各エリアでの映像の内容について打合せを実施し、各エリアのテーマに応じた映像を制作した。
- ・ 制作した映像は Youtube や沖縄北部観光情報コミュニケーションサイト、Facebook 等の SNS で配信した。また那覇空港のウェルカムホールでのやんばる観光フェア、沖縄リゾート EXPO in TOKYO でも放映した。

エリア区分:北エリア	国頭村、東村、大宜味村
本部半島エリア	名護市、今帰仁村、本部町
離島エリア	伊江村、伊是名村、伊平屋村
南エリア	恩納村、金武町、宜野座村

映像時間:約 5 分 × 4 エリア 計約 20 分

監督: 岸本司氏

役者: 比嘉憲吾(エピソード 2、4)、ニッキー (エピソード 4)
川満彩杏(エピソード 1、3)、真栄城美鈴(エピソード 1,4)

Facebook による閲覧回数:2,159 回(2015 年 3 月 20 日時点)

②制作内容

- ・ 沖縄北部の 4 つの散歩日記(観光 PR 映像)
- ・ 沖縄観光情報コミュニケーションサイトで配信中。

<http://yanbaru-tour.net/guide/p55.html>



～「Episode1:半島1周分の幸せ」～ 本部半島エリア



今帰仁村、本部町、名護市の美しい風景と美味しいものを食べる女子二人旅です。観光スポットや地元のお店などを巡り、魅力ある旅を紹介します。

～「Episode2:やんばる男飯」～ 南エリア



宜野座村、金武町、恩納村の名物料理、大盛料理を食べつくす男二人旅。沖縄 B 級グルメをたらふく満喫できる所を紹介します。

～「Episode3:トレッキング・デイ」～ 北エリア



大宜味村、国頭村、東村の大自然をカップルで楽しむ旅。大自然広がる山や川をトレッキング&カヤックで楽しめるところを紹介します。

～「Episode4:ブルーアイランド」～ 離島エリア



伊江島、伊是名島、伊平屋島の人と触れ合いゆっくり時間が流れていく沖縄時間を楽しむ旅。癒されること間違いなし！の旅を紹介します。

(3)成果と課題

①事業の成果

- ・ 観光フェア出展は、平成25年度からおこなっているが、今年度は那覇空港ウェルカムホールと沖縄リゾートEXPOinTOKYOに出展した。
- ・ 出展にあたっては、観光協会等の団体から成るプロモーションプロジェクトチームを組成して、やんばるプロモーションビデオの企画制作や、やんばるファイル de バックの企画制作などから関わった。
- ・ フェア出展についても、プロモーションプロジェクトチームからエリア別代表を参加させることにより、観光客や来場者と直接ニーズを確認する場が作られた。
- ・ 広域で出展することにより、お客様の問い合わせにも幅広い視点から応えることができた。
- ・ 那覇空港ウェルカムホールでは、物産の試食が誘客効果となり、ブースに訪れるきっかけとすることができた。物産も好評で、どこで買えるのかとの問い合わせも多くあった。
- ・ 沖縄リゾートEXPOinTOKYOの場合は、来場者は旅行関係の業者であったことが、アンケート回答を依頼しながらやんばるがPRすべき資源などについて、多くのアドバイスをを得ることができた。
- ・ やんばるを4つのエリアに分け、各テーマに応じたPVを制作。観光フェア及び観光案内コーナーで上映したことで視覚的なPRが出来た。

②今後の課題

- ・ 那覇空港ウェルカムホールは沖縄旅行から本土へ帰る観光客が多く、直接的に周遊・消費促進を図る場所としては、開催場所の検討が必要である。
- ・ 着地側の特産品を組み入れた開催など経済効果につながるような取り組みが必要である。
- ・ 発地側に対して、やんばるのPRを継続し、連携プロジェクトの内容等に関する反応を把握することが必要である。

第4章 ニーズ把握調査

4-1 観光動態調査

(1)調査の目的

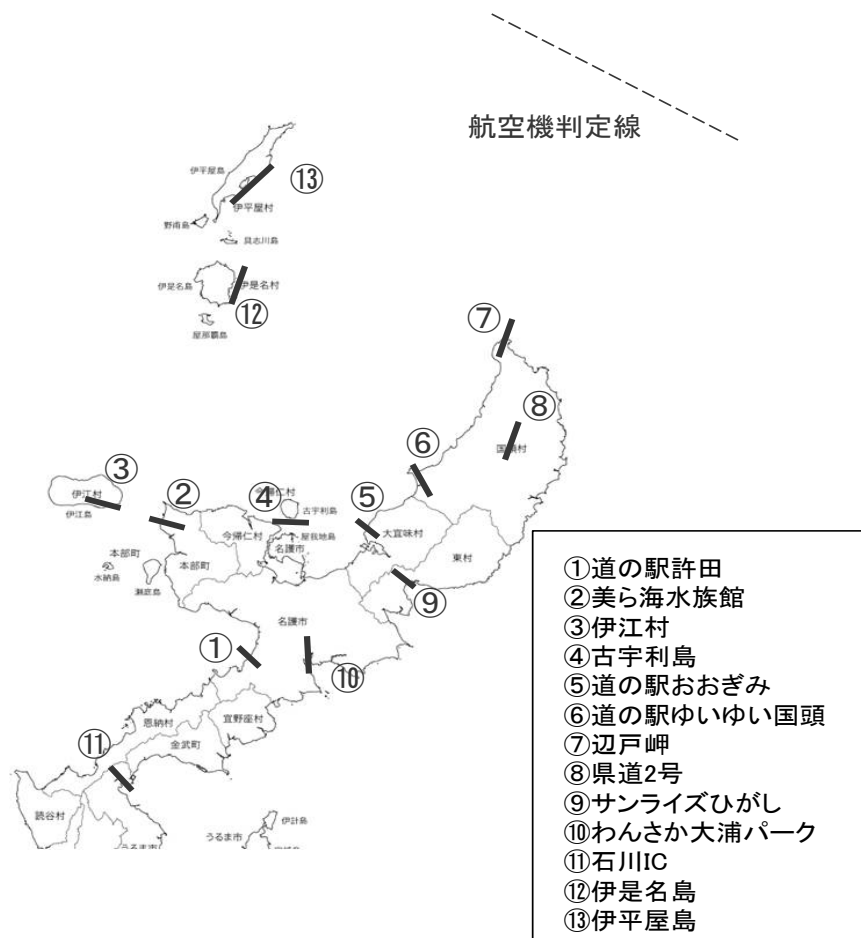
本調査は、やんばるの着地型観光を推進する連携機能の形成に向け、観光客のニーズを把握するために実施するものである。なかでも、観光客が北部地域を周遊する際にどの経路を辿っているのかについて把握し、周遊、滞在、消費促進を図るべく施策を講じるための基礎資料とすることを目的とする。

(2)調査概要

本調査は、沖縄県北部地域において、周遊観光がどれだけ行なわれているのかを知るため、位置情報* データを用いて旅行実態を調査した。

*位置情報…GPS（Global Positioning System／全地球測位システム）で得られた情報のこと。本調査では、携帯電話のGPS機能により、携帯電話ユーザーからあらかじめ承諾を得た上で取得した位置情報の分布を、分析システムにより個人を特定せずに統計処理したデータを用いて調査を行っている。

図 通過判定ライン

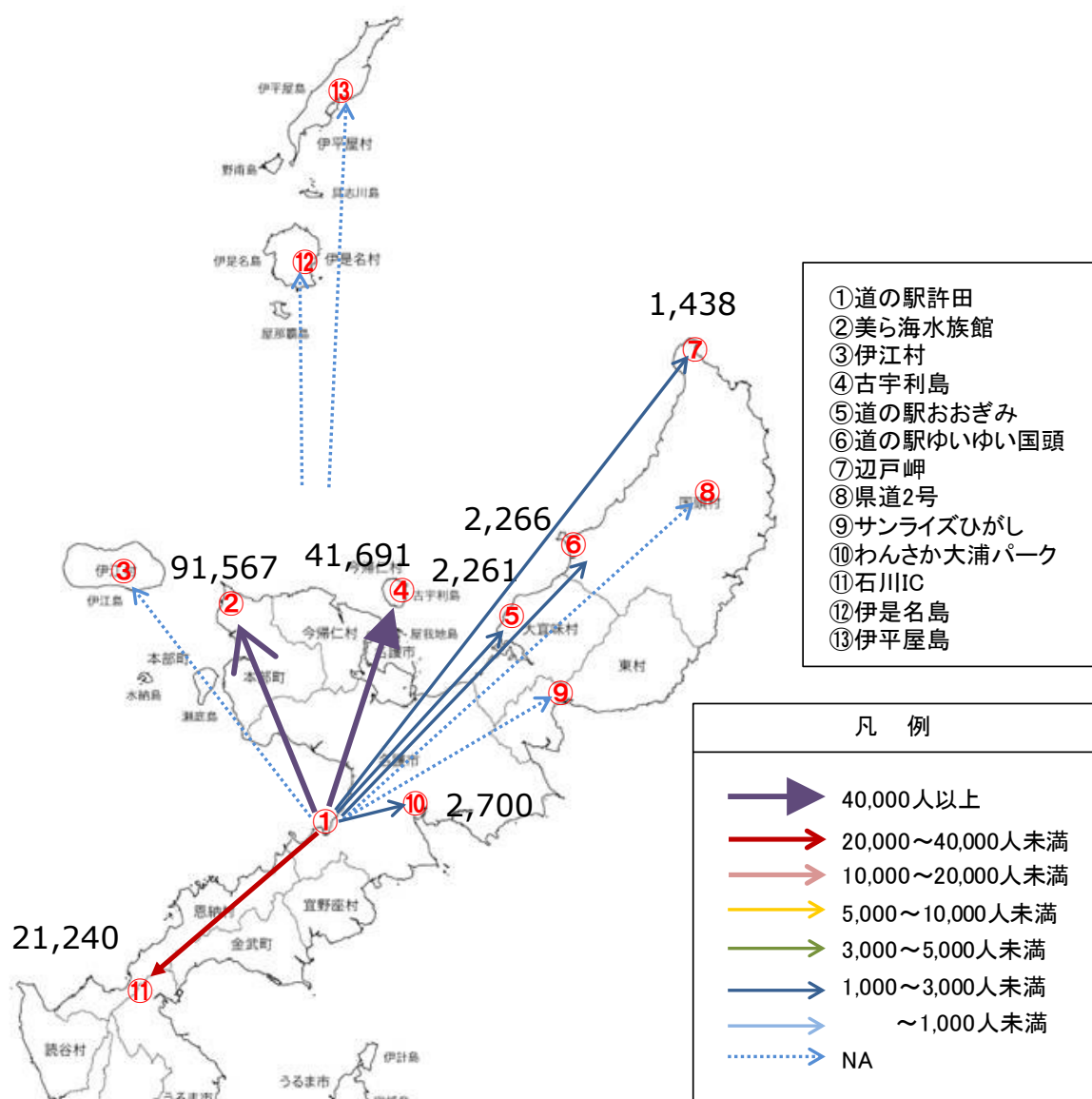


① 許田経由

本調査により、北部地域に設定した通過点のうち、①の許田を通過した人の立ち寄り者数の多い地点は、那覇市宿泊者、恩納村宿泊者、県外者ともに②の美ら海水族館、④の古宇利島という結果となった。

また、北部地域まで移動している観光客は、県外者が多く、次いで那覇市宿泊者となっており、恩納村宿泊者は、ほぼいないに近い。⑧の県道2号と⑨のサンライズ東は、那覇市宿泊者、恩納村宿泊者の移動がみられない。

図 北部旅行者の立ち寄り地(県外者)



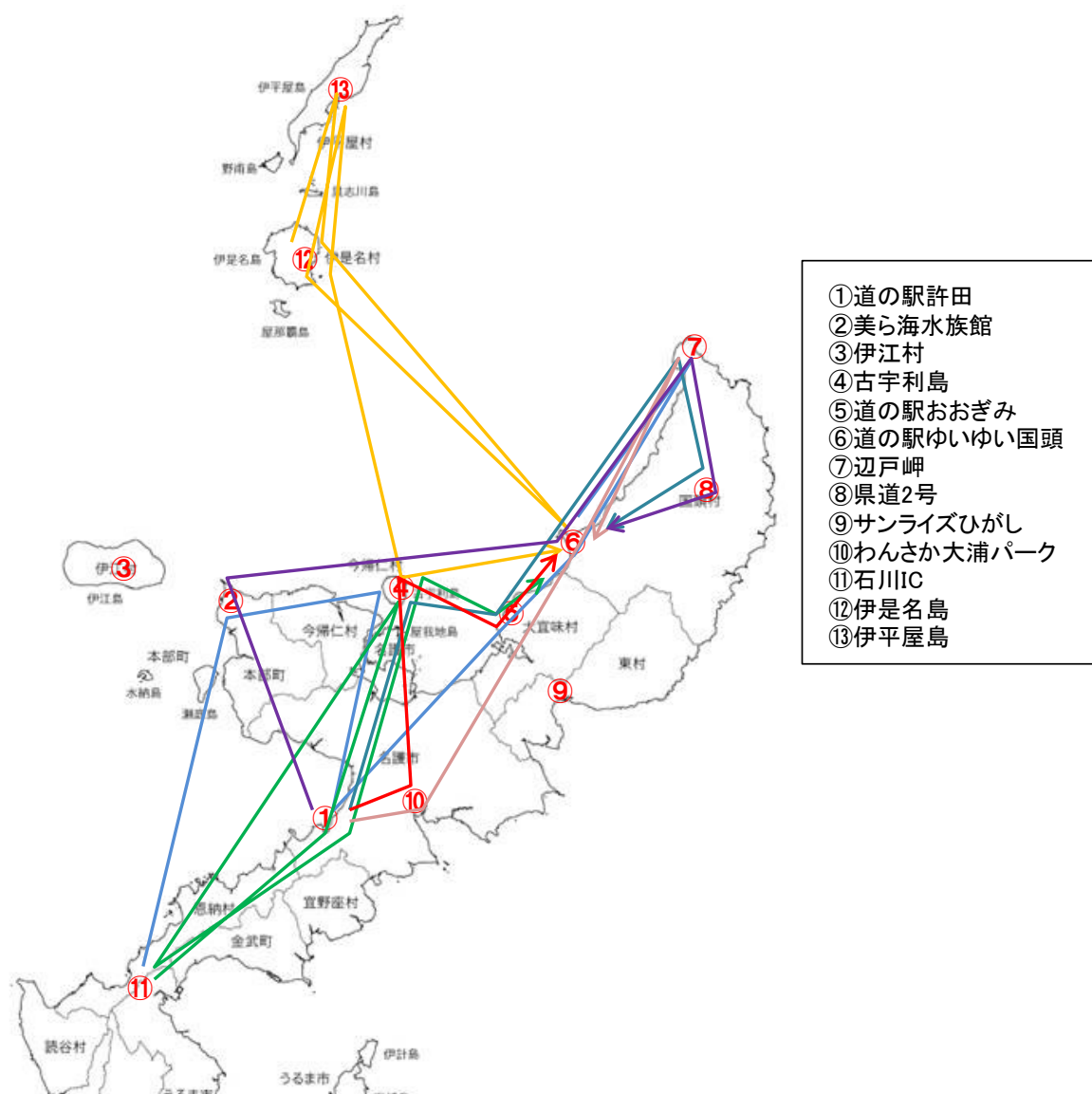
地図データ:テクノコ白地図イラスト: <http://technocco.jp/>

② 移動経路

⑧の県道2号と⑨のサンライズ東への移動がみられる県外客による⑥、⑦、⑧、⑨への主要な移動経路をみると、以下図のようになった。

- ⑥の道の駅ゆいゆい国頭、⑦の辺戸岬、⑧の県道2号の通過は、西側からの流れがほとんどであり、東海岸側からの移動は皆無である。
- ⑨のサンライズ東へは、南側からの移動がほとんどであり、美ら海水族館など観光客の多い地域からの移動はみられない

図 北部旅行者の立ち寄り地(⑥への経路)



地図データ: テクノコ白地図イラスト: <http://technocco.jp/>

(3)成果と課題

①事業の成果

- ・ 7月～9月のピーク時における観光動態として、東海岸や離島への周遊が少ない状況が浮き彫りにされた。
- ・ 調査結果から、北部地域の西側方面へは、美ら海水族館など観光客の多い地域から観光客の移動が見られるため、誘客の方策を本部町や今帰仁村などの地域へ仕掛けていくことも有効であると思われる。しかし、東村への誘客には、効果はないものと考えられる。
- ・ 東村への誘客については、⑩のわんさか大浦パークなど名護市の南部への集客の方策を図る方が有効であると考ええる。また、東村へは、移動の途中で立ち寄るというよりは、目的型のサービス提供を図ることも有効であると考ええる。

②今後の課題

- ・ 調査結果をふまえ、東海岸誘導については沖縄に来る前にPRを図ることが必要であり、まずは観光地としての認知度を高めることに重点を置く必要がある。
- ・ わんさか大浦パークなど東海岸の観光地相互のPRは進めていく必要がある。
- ・ 通年で観光客の動きをさらに詳細に把握し、地域別の戦略や地域間の連携戦略に活かす必要がある。

4-2. インバウンド観光の現状

(1) 目的

平成 24 年度から平成 25 年度の各会議を通して、インバウンドへ対応する必要性があげられた。
特に、クルーズ船の本部港への寄港は既に始まっており、急務であるとされた。
今後の展開にあたり、関係機関へのヒアリングによりニーズ調査を行う。

(2) 実施概要

- ① 既存資料の収集整理
 - ・ 外国人観光客の受け入れ状況／クルーズ船
 - ・ 沖縄県内の取り組み状況
- ② ヒアリング調査

1) 本部港におけるクルーズ船誘致の課題

① クルーズ客の誘致についての共通認識

● 北部の市町村のレベルを超えた連携体制(港湾・自治体・観光業界・住民の協働)

- ① クルーズ船の受け入れのメリットや課題を関係者間で把握・共有
- ② 港湾、自治体、観光協会、商工会、住民の連携
- ③ 本部町だけでなく北部 12 市町村の広域的な連携

② クルーズ客の観光動線への対応

● 本部港からの観光動線の整備

- ① 1 区間の移動距離は 60 分圏内で設定
- ② 自然体験コンテンツの充実（那覇にはないコンテンツ）
- ③ 人気の高い「美ら海水族館／今帰仁城址等」の周遊
- ④ ショッピングエリアの確保
- ⑤ 既存ホテルを利用したリラクゼーション施設の確保

● 那覇を拠点とした観光動線からの変革

- ① 那覇寄港のクルーズ船では難しい「美ら海水族館／今帰仁城址等」等の観光施設への周遊（本部町／今帰仁村／名護市）
- ② 自然体験コンテンツを利用した「感じる観光」の創設（本部町／国頭村／東村／大宜味村／名護市）
- ③ 「食コンテンツ」「癒しコンテンツ」の活用
 - 名護市（第六次産業と連携）、大宜味村（長寿村ブランドを活用した健康料理）
 - 恩納村（既存のリゾートホテルを活用したリラクゼーションの確保）
- ④ ショッピングエリアの充実
 - 名護市（大型商業施設）、金武町（ギンバル訓練場跡地利用の商業施設）
- ⑤ 入港時における本部港仮設物産販売所の設置
 - 北部の特産品の販売所の設置（露店、歓迎イベント等の併催）

③クルーズ船の受け入れ態勢の整備

●旅客船ふ頭や関連施設の整備

- ①旅客船ふ頭の整備・拡張⇒地元からの要望が必要

●ポートサービスの充実・強化

- ①入国審査の簡素化・迅速化⇒県から関係機関への要請
- ②交通アクセスの充実・強化
- ③両替、郵便サービスの充実・強化
- ④通訳の充実・強化
- ⑤観光案内の充実・強化
- ⑥歓迎行事の充実・強化
- ⑦ツアーの充実・強化

●陸上観光地との連携

●クルーズ旅行の普及促進活動

- ①クルーズ船の寄港情報の発信
- ②県民のホスピタリティの向上

④国内外のクルーズ船の寄港促進を図る積極的な誘致活動の実施

●積極的な誘致活動の実施

- ①邦船社に対するポートセールス
- ②外国船社に対するポートセールス

2)やんばるにおけるインバウンド観光受け入れの課題

Q1. 外国人観光客受け入れについて現在実施している施策

- ・ 観光パンフレットの外国語版の作成
- ・ 観光総合案内板、サイン等の多言語版の作成、設置
- ・ 地元資源に関する案内パンフレットの外国語版の作成
- ・ 観光情報等電子案内板(デジタルサイネージ)の表示を多言語にて表示し、各設置地域と連携
- ・ 外国人対応人材育成講座の実施
- ・ 地元の外国人を活用した通訳の依頼

Q2. 外国人観光客の受け入れに際しての課題

- ・ 外国語での対応(食事のメニュー等)
- ・ 外国語を話せるスタッフの配置
- ・ 観光施設内の外国語の案内表示
- ・ 外国人客の対応ができる人材の確保、育成
- ・ 外国語によるコミュニケーション不可による小規模店舗における買い物客の消費機会損失(各問合せに対応不可)
- ・ 質の高いサービスの提供
- ・ 将来的に団体客を受け入れる場合の医療の対応

Q3. 外国人観光客を受け入れる上で今後必要と思われる対策

- レンタカーや Wi-Fi の整備
- 人材確保、育成(あるいは外国語対応ガイド団体との連携)
- 多言語表示観光案内パンフレットの作成(各地HP含)
- 同時通訳機器等の設置
- 観光事業所のスキルアップ(言語だけでなく習慣等の勉強)
- 公共物の使用方法の外国語表記
- 外貨両替所の設置

②受け入れ施設アンケート結果 概要

- 北部地域の外国人観光客の受け入れ状況を把握するため、宿泊施設 14 件に、あらかじめ質問シートを送り、アンケートを行った。
- 受け入れ頻度は高いが全体の割合としては 20%以下となっている。最近では香港、台湾は増加傾向にある。比較的客数の多いホテルではパンフの設置や外国語対応が可能なスタッフが常住している。スキルアップのためにも、語学講座の継続派遣が必要。他に、外国取引への取り組みの検討についてもあげられた。

第5章 とりまとめ

5-1 今年度の成果と課題

(1) 各事業の成果と課題とりまとめ

平成 26 年度は、研究会を設け、連携体制の機能や役割、体制面の検討を重ねた。また、情報発信の充実強化を図りながら、プロジェクトチームによる連携実行体制で、東海岸地域をフィールドとしたモニターツアーやスタンプラリーの実施及び観光プロモーションを行った。

今年度の成果と課題を次のように整理した。

表 H26 の成果と課題

H26 の成果	今後の課題
1 連携の仕組みづくり ●やんばる観光連携推進研究会の設置 ⇒連携体制について関係者で検討した結果、まずはエリア別連携体制の充実強化を図りながら 12 市町村の連携体制についても引き続き検討することとなった。 ●連携プロジェクト実証（東海岸モニターツアー） ⇒関係する 5 団体の連携体制のモデルが創られた。他のエリアの自発的な連携を促した。 ⇒「大人の民泊」という新たなテーマ設定、モニターによる評価を受け、商品化に向けての課題が抽出された。	●やんばる観光連携推進研究会の継続 ⇒今後もやんばる全体の情報交換や連携体制について検討を続ける。 ●エリア別の連携体制の創出と強化 ⇒エリア別の連携体制について、連携プロジェクトとして実践を通じた連携体制づくりを進める。 ⇒着地型観光商品化のためのブラッシュアップと事務局の自立的な体制作りが必要である。
2 情報集約・発信 ●情報サイトの充実強化 ⇒FB による投稿欄を追加。閲覧者が国内外に拡大した。 ⇒ドライブルートと飲食店情報、マップやイベントアプリのダウンロードページ追加。 ●情報拠点の充実強化 ⇒観光案内コーナーの PR を強化し、観光客の利用が増加。観光客、地元双方から案内コーナーの必要性が高まった。 ⇒やんばる地域の直売店 17 か所でスタンプラリーを実施。 ⇒ドライブコースと飲食情報を掲載したドライブ本制作、配布。 ⇒やんばるマップの他言語版を制作、配布。 ⇒ドライブ CD の制作、(レンタカー店で) レンタル実施。	●情報サイトの充実強化 ⇒今後も情報の集約、フェイスブック等を活用した最新情報の提供、国内外の観光客とのコミュニケーションをさらに充実する必要がある。 ●情報拠点の充実強化 ⇒観光案内コーナーでも多言語対応の必要性が高まっている。 ⇒今後も各地域との連絡体制を強化し、観光客のニーズに応じた適格な案内を行う。 ⇒観光案内コーナーの継続要望が高まっており、運営方針や関係機関との位置付けを明確にしていける必要がある。
3 観光プロモーション ●観光フェア等への出展 ⇒那覇空港 2F ウェルカムホールでやんばる観光フェアを開催した。各エリア代表の参加、特産品試食は好評を得た。 ⇒沖縄 EXPO in TOKYO に出展。各エリア代表の参加により、旅行社、メディア等への PR を行った。 ●やんばるパッケージ制作 ⇒やんばるイメージのデザインのファイルバックを制作・配布し好評を得た。実用的なアイテムで 2 次的効果も期待される。 ●プロモーション用やんばる観光イメージ映像制作 ⇒やんばるを 4 つのエリアに分け、各テーマに応じた PV を制作。観光フェア及び観光案内コーナーで上映した。	●観光フェア等への出展 ⇒那覇空港ウェルカムホールは出発客が多く、開催場所の検討が必要である。 ⇒着地側での特産品とタイアップした開催など経済効果につながるような取り組みが必要である。 ⇒発地側に対して、やんばるの PR を継続する。連携プロジェクトの内容等に関する反応を把握する。 ●やんばるパッケージ制作 ⇒観光案内コーナーや観光フェア等で配布するサービスアイテムとして検討が必要である。
4 ニーズ把握 ●観光客動態調査 ⇒7 月～8 月のピーク時における観光動態として、東海岸や離島への周遊が少ない状況が浮き彫りにされた。 ●関係機関ヒアリング調査 ⇒インバウンドに関する受け入れ体制課題などを把握した。	●観光客動態調査 ⇒通年で観光客の動きをさらに詳細に把握し、地域別の戦略や地域間の連携戦略に活かす必要がある。

(2)事業の進捗評価

本事業は平成 24 年度からはじまり、平成 26 年度で 3 年となる。ここで、これまでの事業成果を振り返るため、研究会メンバーにアンケート調査を行った。

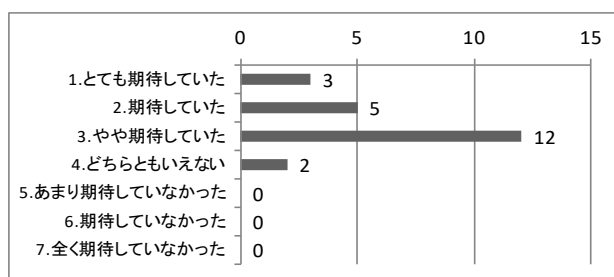
結果として、連携事業に対して「とても満足した」の回答は無く、「やや満足した」「満足した」で 17 件 (77.3%) となった。

継続が必要な事項については、「観光案内コーナー」が最も多く、「研究会」の継続が継いでいる。これらの結果をふまえ、今後の展開を図る。

Q1 連携事業に対する期待度

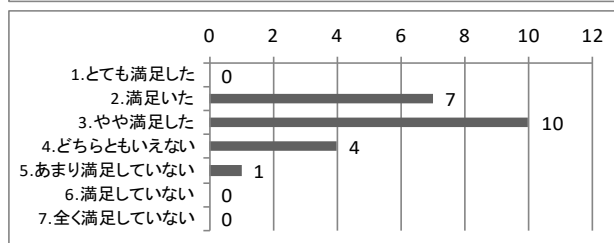
合計

1	1.とても期待していた	3
	2.期待していた	5
	3.やや期待していた	12
	4.どちらともいえない	2
	5.あまり期待していなかった	0
	6.期待していなかった	0
	7.全く期待していなかった	0



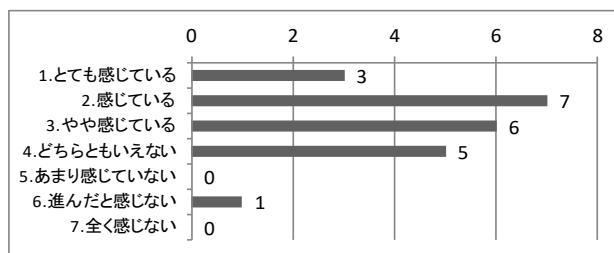
Q2 連携事業に対する満足度

2	1.とても満足した	0
	2.満足した	7
	3.やや満足した	10
	4.どちらともいえない	4
	5.あまり満足していない	1
	6.満足していない	0
	7.全く満足していない	0



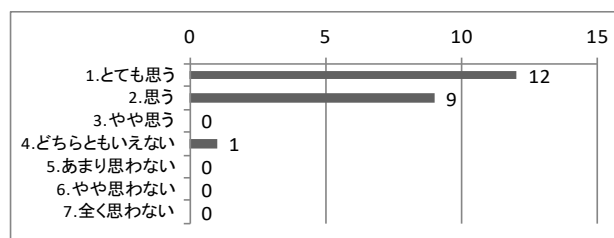
Q3 連携が進んだか？

3	1.とても感じている	3
	2.感じている	7
	3.やや感じている	6
	4.どちらともいえない	5
	5.あまり感じていない	0
	6.進んだと感じない	1
	7.全く感じない	0



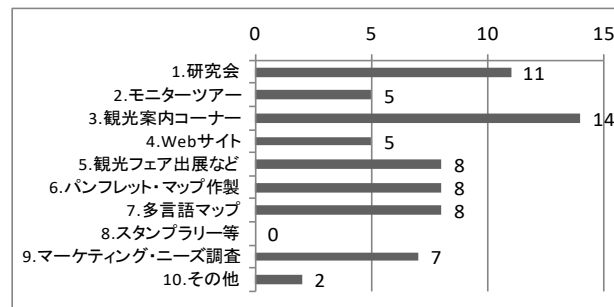
Q4 連携事業の必要性

4	1.とても思う	12
	2.思う	9
	3.やや思う	0
	4.どちらともいえない	1
	5.あまり思わない	0
	6.やや思わない	0
	7.全く思わない	0



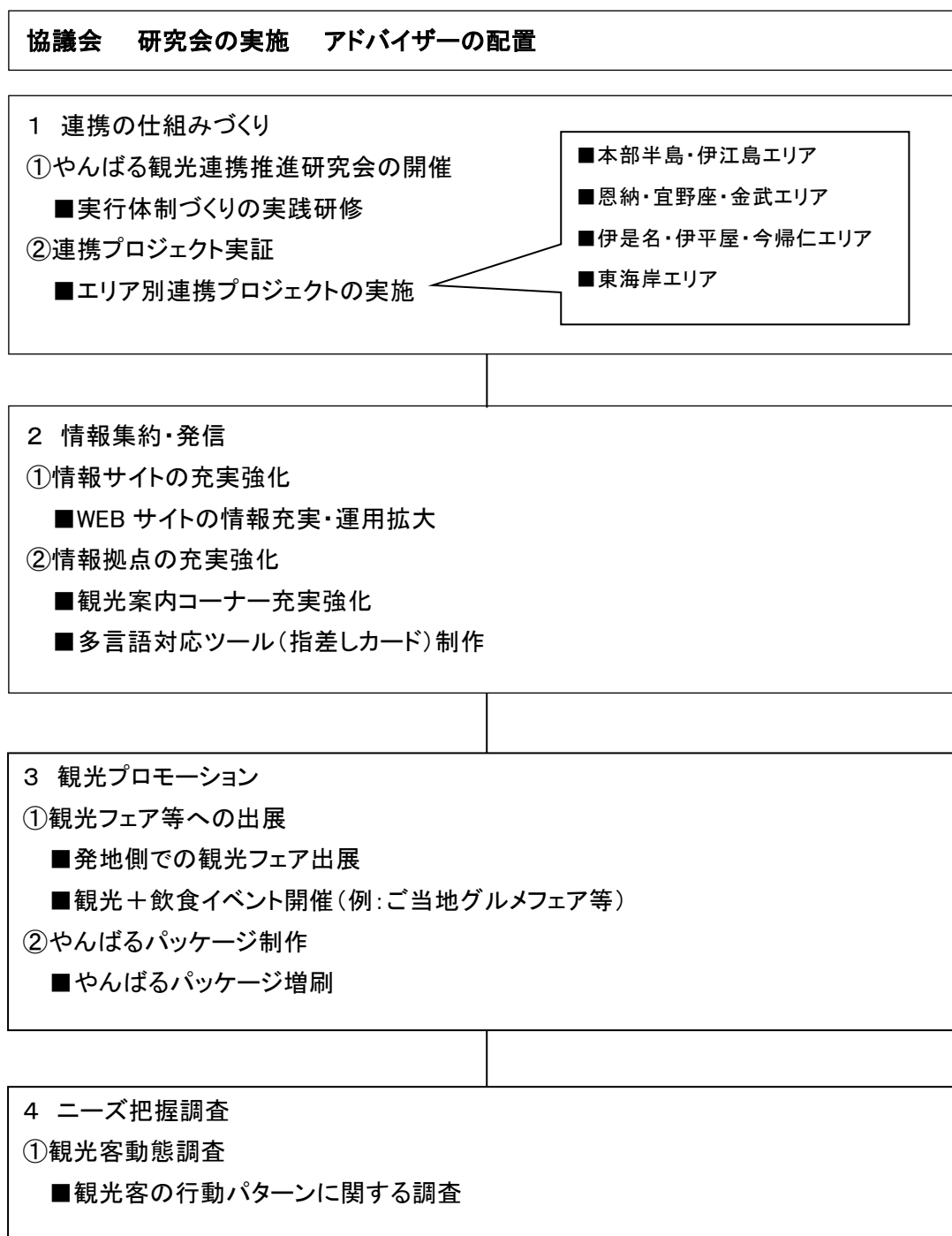
Q5 連携が必要な事項

5	1.研究会	11
	2.モニターツアー	5
	3.観光案内コーナー	14
	4.Webサイト	5
	5.観光フェア出展など	8
	6.パンフレット・マップ作製	8
	7.多言語マップ	8
	8.スタンプラリー等	0
	9.マーケティング・ニーズ調査	7
	10.その他	2



5-2 平成27年度業務の内容

(1)平成 27 年度業務の内容(全体像)



平成 26 年度 委員名簿

やんばる観光連携推進事業 協議会 委員名簿

親川 敬	名護市	副市長	座長
小川 剛男	国頭村	副村長	
山城 清臣	大宜味村	副村長	
金城 紀昭	東村	副村長	
大城 清紀	今帰仁村	副村長	
平良 武康	本部町	副町長	
池宮城 秀光	恩納村	副村長	
外間 毅	〃	〃	(平成 27 年 2 月 24 日～)
岸本 宏和	宜野座村	副村長	
伊芸 達博	金武町	副町長	
池原 均	〃	〃	(平成 26 年 12 月 20 日～)
名城 政英	伊江村	副村長	
伊礼 清	伊平屋村	副村長	
上里 政豊	伊是名村	副村長	

やんばる観光連携推進事業 研究会 委員名簿

【12 市町村役場】

當山 賢	名護市	商工観光課	課長
大城 磯子	〃	〃	係長
知花 靖	国頭村	企画商工観光課	課長
前田 浩也	〃	〃	係長
山城 均	大宜味村	企画観光課	課長
藤田 元也	〃	〃	係長
金城 幸人	東村	企画観光課	課長
仲嶺 真文	〃	〃	課長補佐
島袋 輝也	今帰仁村	経済課	課長
上原 一也	〃	〃	係長
宮城 建	本部町	商工観光課	課長
謝花 祐作	〃	〃	班長
長浜 保治	恩納村	商工観光課	課長
野原 みちよ	〃	〃	係長
金城 勉	宜野座村	観光商工課	課長
新里 俊文	〃	〃	主事
安富祖 勸	金武町	産業振興課	課長

伊芸 勲	〃	〃	主幹
東江 民雄	伊江村	商工観光課	課長
島袋 祐次	〃	〃	係長
上江洲 清彦	伊平屋村	総合推進室	室長
上原 拓海	〃	〃	主事
銘苅 正康	伊是名村	商工観光課	課長
東江 隆路	〃	〃	係長

【12 市町村関連団体】

比嘉 重文	名護市	公益社団法人名護市観光協会	事務局長
平良 勇	国頭村	国頭村観光物産株式会社	支配人
稲福 元子	大宜味村	NPO 法人おおぎみまるととツーリズム協会	事務局長
小田 晃久	東村	NPO 法人東村観光推進協議会	事務局長
又吉 演	今帰仁村	今帰仁村観光協会	事務局長
嘉数 剛	本部町	一般財団法人本部町観光協会	事務局長
名城 一幸	恩納村	NPO 法人ふれあい ONNA ネット	課長
仲間 赴人	宜野座村	宜野座村観光推進協議会	事務局長
山川 宗仁	金武町	金武町観光協会	執行理事
金城 盛和	伊江村	一般財団法人伊江島観光協会	会長
上間 美卓	伊是名村	一般財団法人いぜな島観光協会	次長
川満 修二	一般財団法人美ら島財団	水族館事業部水族館事業チームチームリーダー	
満名 誠	一般財団法人美ら島財団	本部 経営企画課 事業開発係	
川添 博明	やんばる観光推進協議会		会長